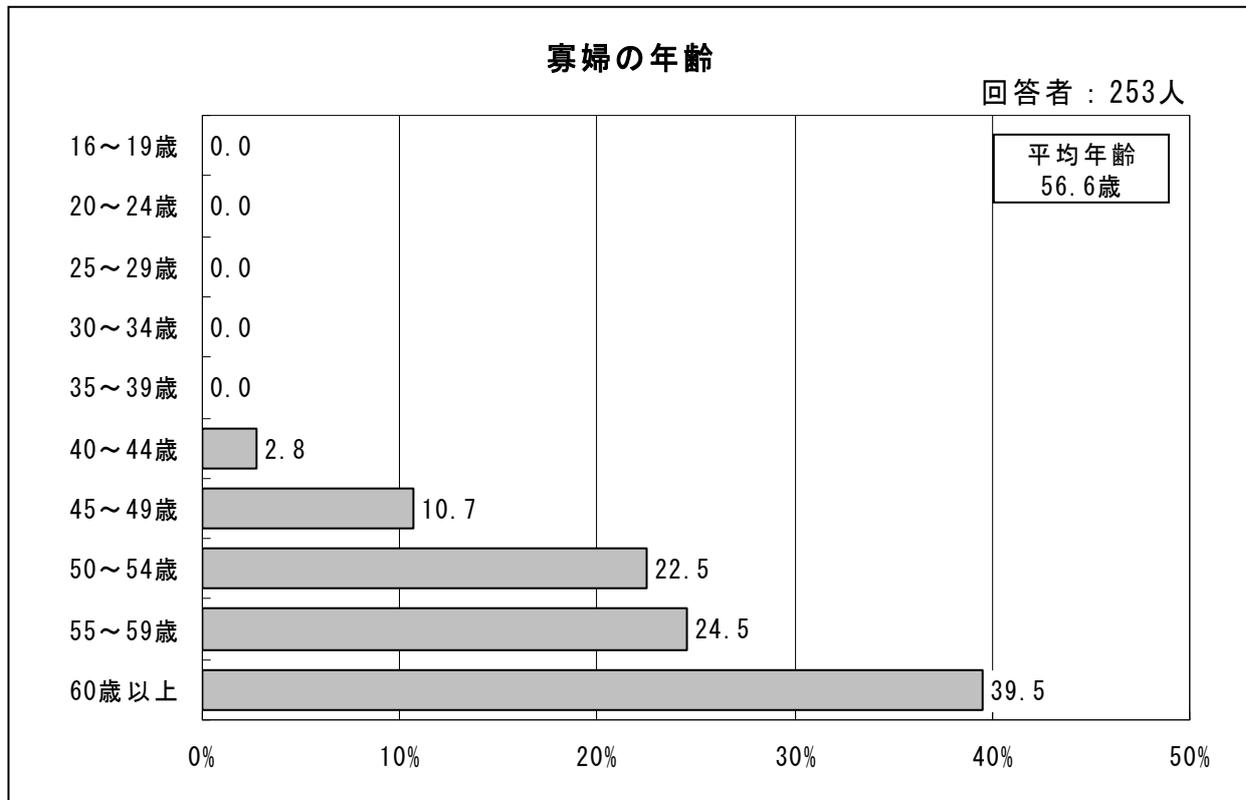


1 寡婦世帯の状況について

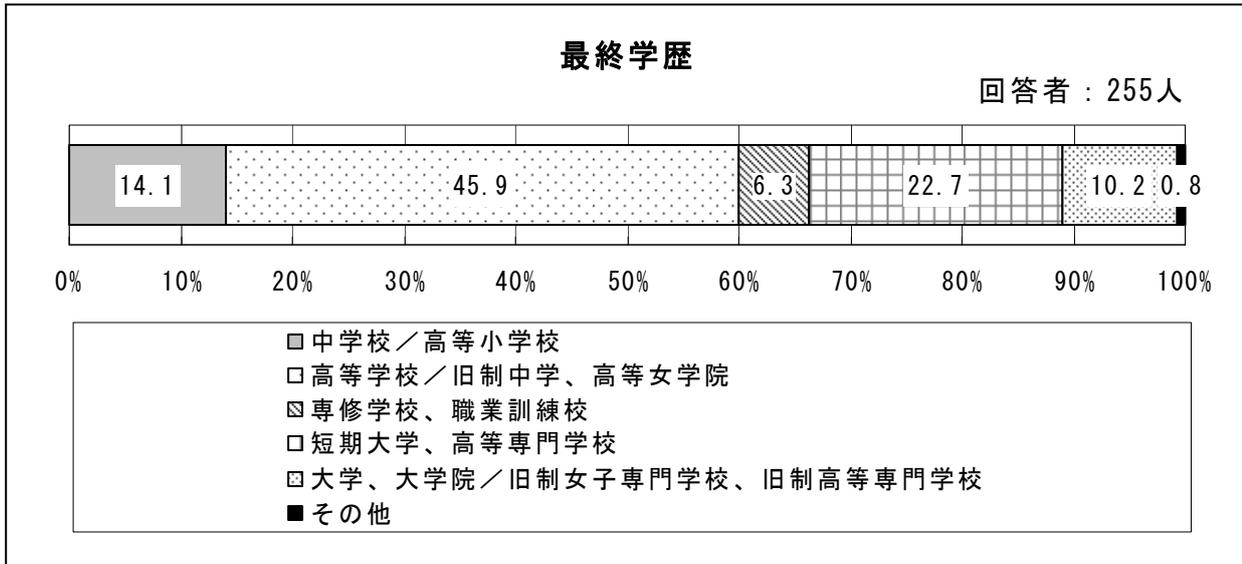
(1) 寡婦の年齢



寡婦の年齢は約5割が50代、約4割が60代以上

寡婦世帯の年齢は「60歳以上」が39.5%と最も多く、次いで「55～59歳」(24.5%)、「50歳～54歳」(22.5%)の順となっており、50歳以上が全体の8割以上(86.5%)を占めている。

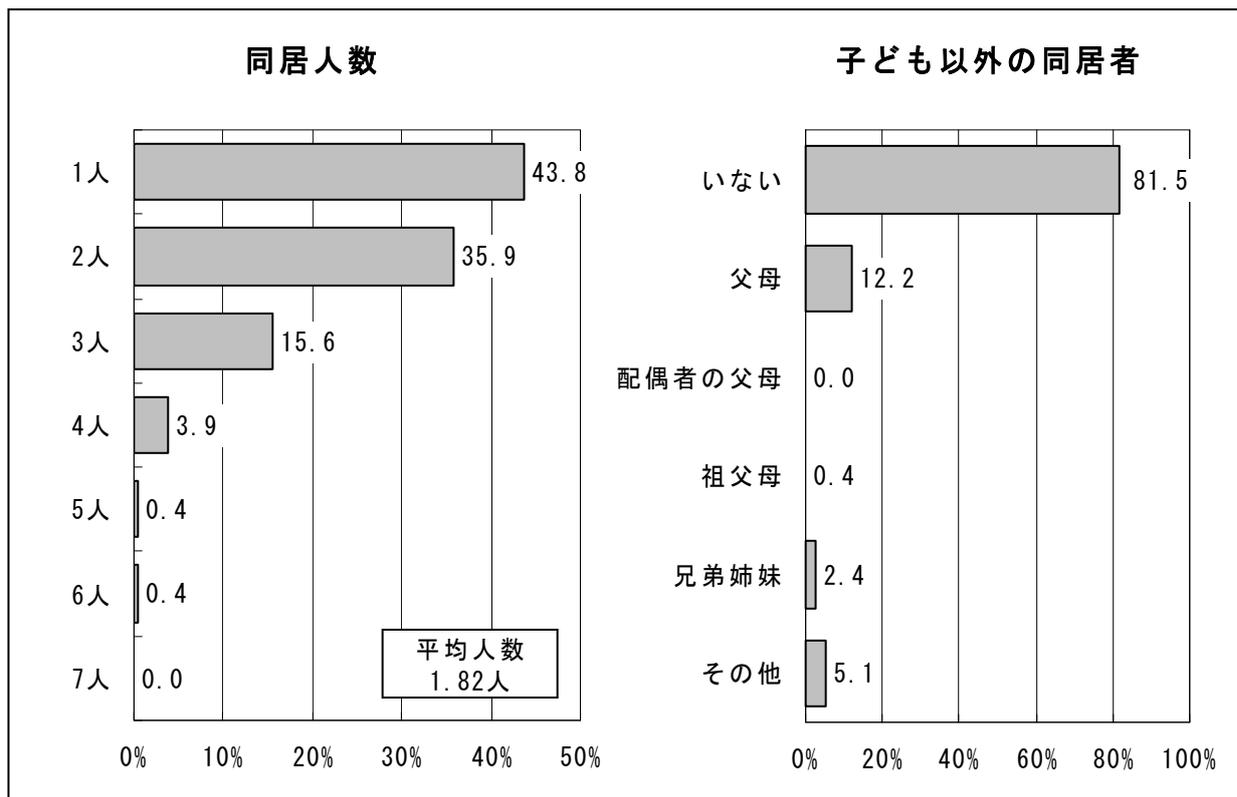
(2) 最終学歴



最終学歴は、高等学校／旧制中学、高等女学院卒業が約5割

寡婦世帯の寡婦の最終学歴は「高等学校/旧制中学、高等女学院」が45.9%と最も多く、次いで「短期大学、高等専門学校」(22.7%)、「中学校／高等小学校」(14.1%)、「大学、大学院／旧制女子専門学校、旧制高等専門学校」(10.2%)の順となっている。

(3) 同居の家族

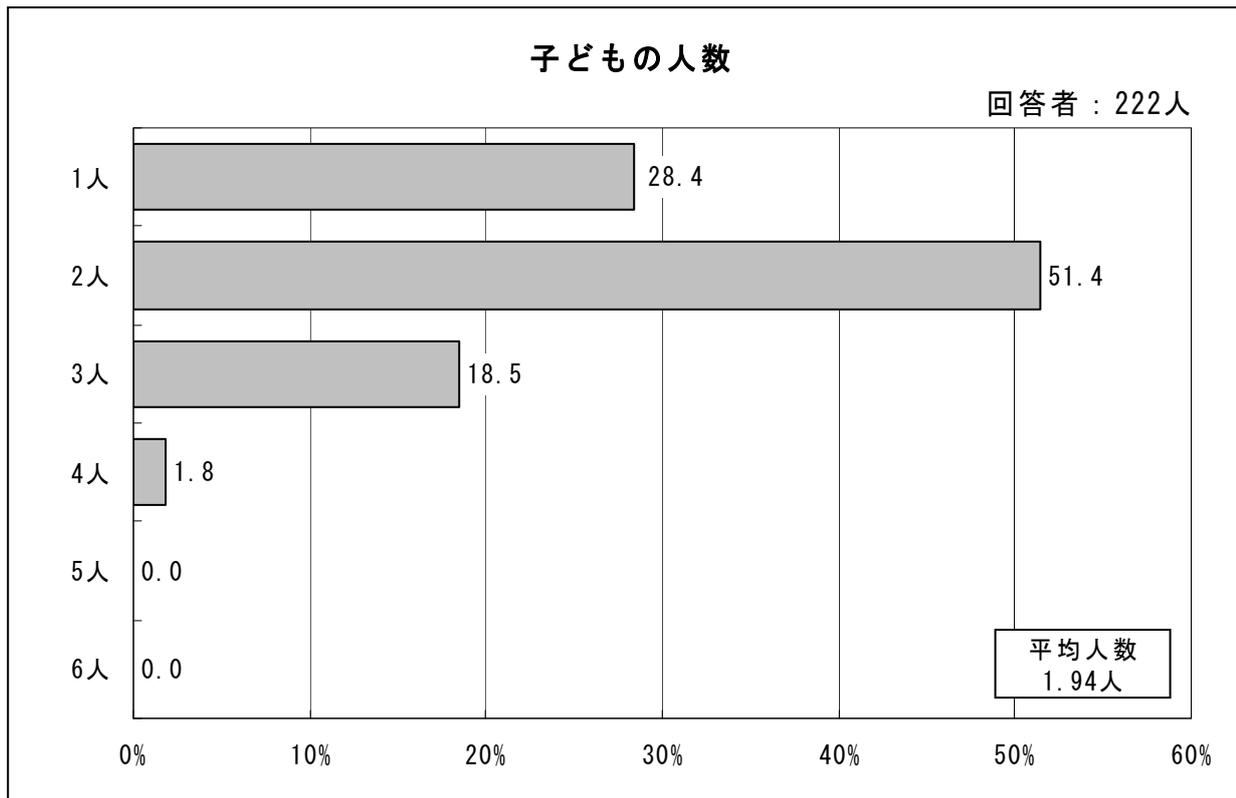


同居人数がない人が約4割、平均同居人数は 1.82 人

本人を含む同居人数は「1人」が43.8%と最も多く、次いで、「2人」(35.9%)、「3人」(15.6%)の順となっており、平均同居人数は1.82人となっている。

子ども以外の同居者については、「いない」が81.5%と多くなっている。

(4) 子どもの人数

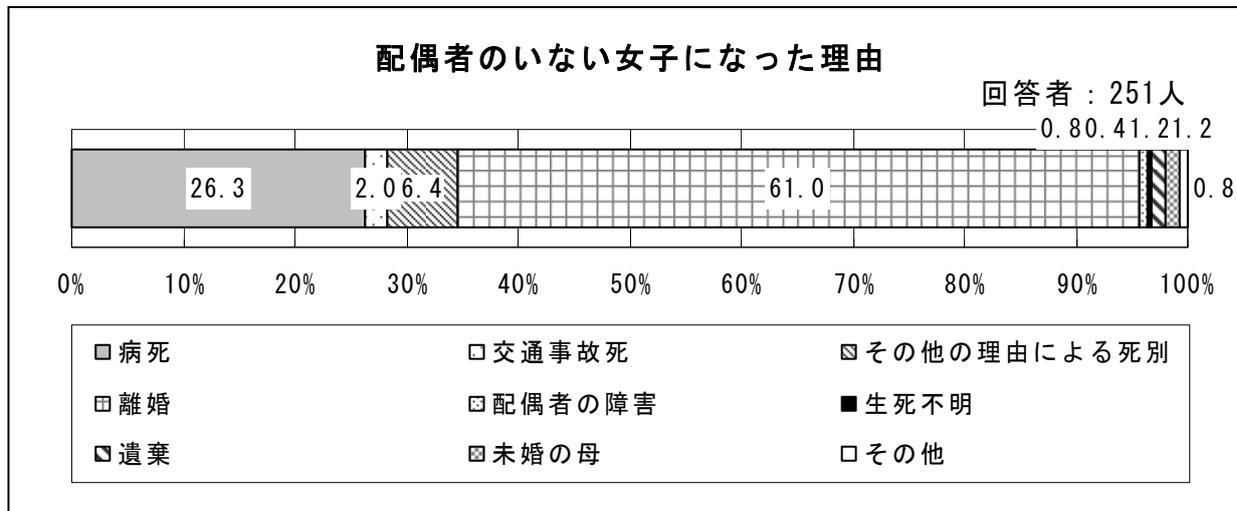


子どもの人数は2人が約5割、平均人数は1.94人

子どもの人数は「2人」が51.4%と最も多く、次いで「1人」(28.4%)、「3人」(18.5%)の順となっており、子どもの平均人数は1.94人となっている。

2 配偶者のいない女子になった当時の状況

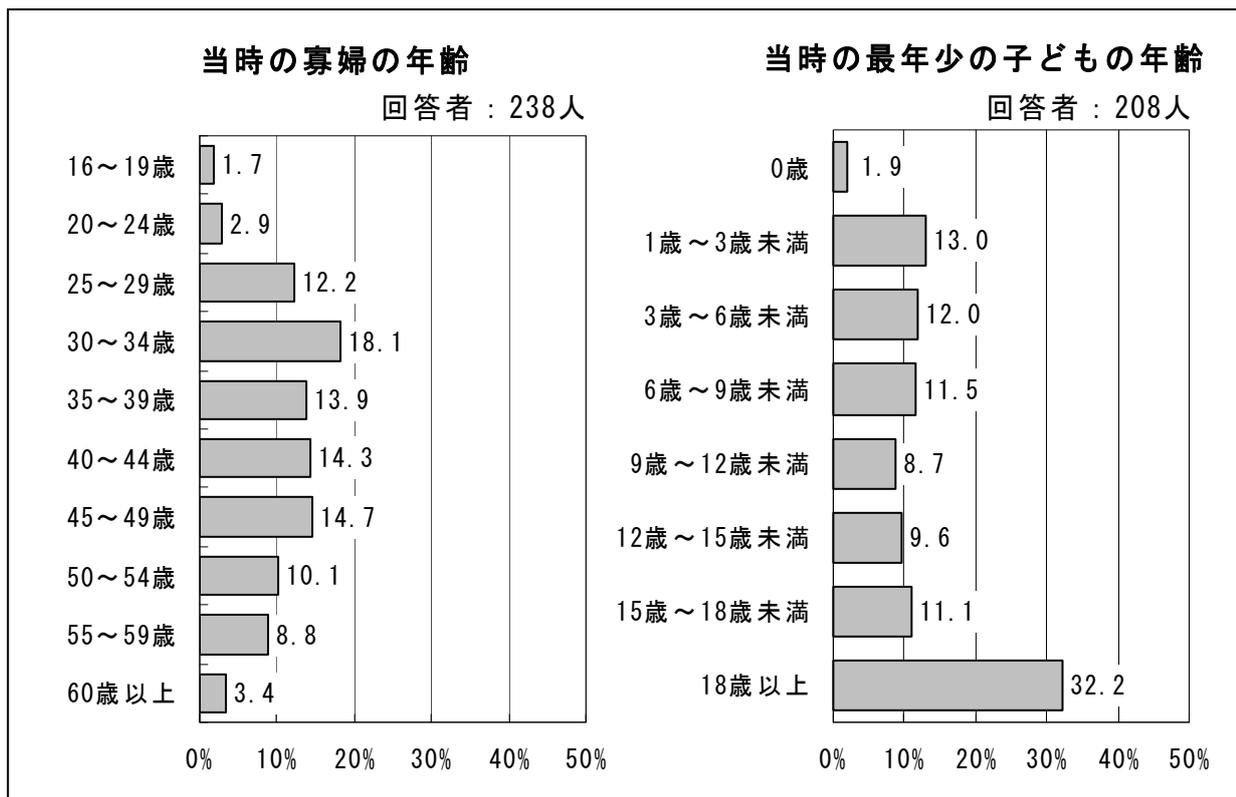
(1) 配偶者のいない女子になった理由



配偶者のいない女子になった理由は離婚が約6割、死別が約3割

配偶者のいない女子になった理由については、「離婚（内縁関係の解消を含む）」が61.0%と最も多く、次いで「病死」が26.3%となっている。

(2) 配偶者のいない女子になった当時の寡婦と最年少の子どもの年齢



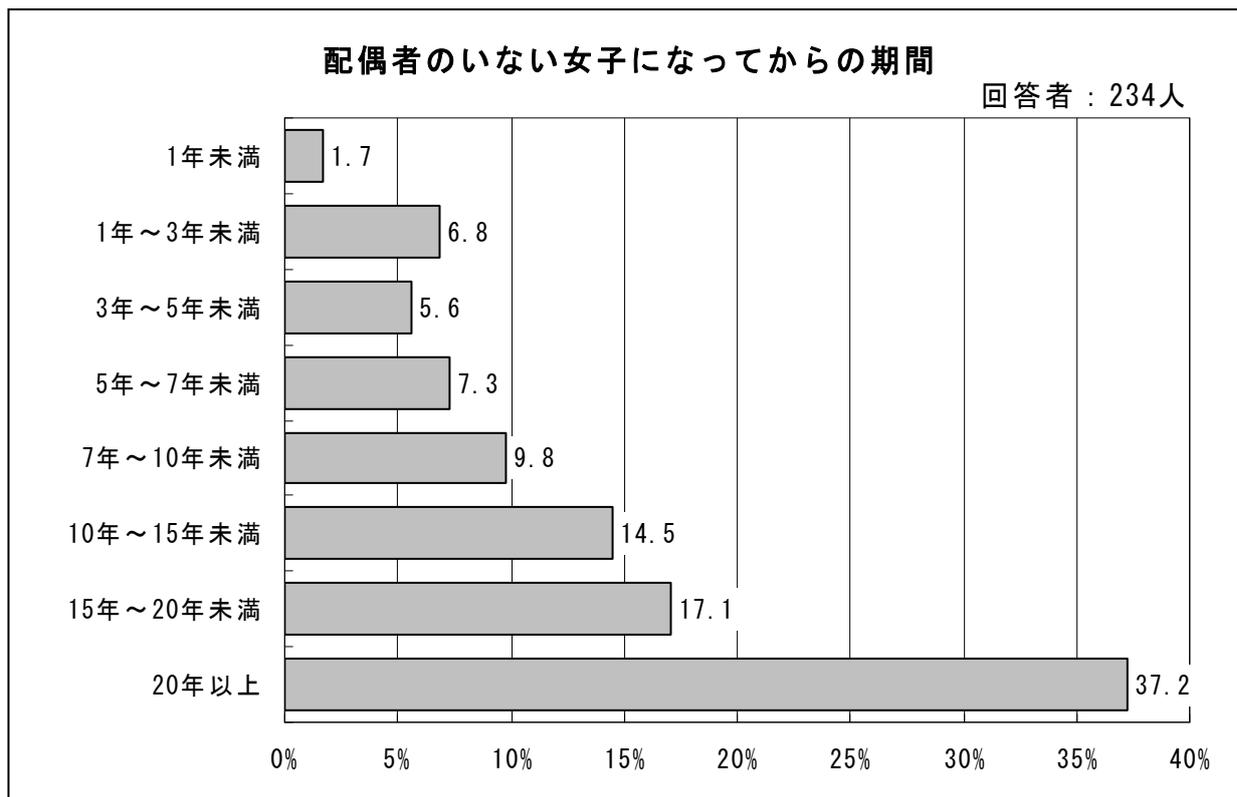
**配偶者のいない女子になった当時の寡婦の年齢は30代が約3割
 当時最年少の子どもの年齢は、6歳未満が約3割、12歳未満では約5割**

配偶者のいない女子になった当時の寡婦の年齢は、「30歳～34歳」が18.1%と最も多く、次いで「45歳～49歳」(14.7%)、「40歳～44歳」(14.3%)、「35歳～39歳」(13.9%)の順となっている。

10歳きざみにみると、30代が32.0%と最も多く、次いで40代(29.0%)、50代(18.9%)の順となっている。

また、その当時一番年齢の低かった子どもの年齢をみると「18歳以上」が32.2%と最も多く、次いで、「1歳～3歳未満」(13.0%)、「3歳～6歳未満」(12.0%)、「6歳～9歳未満」(11.5%)、「15歳～18歳未満」(11.1%)の順となっている。

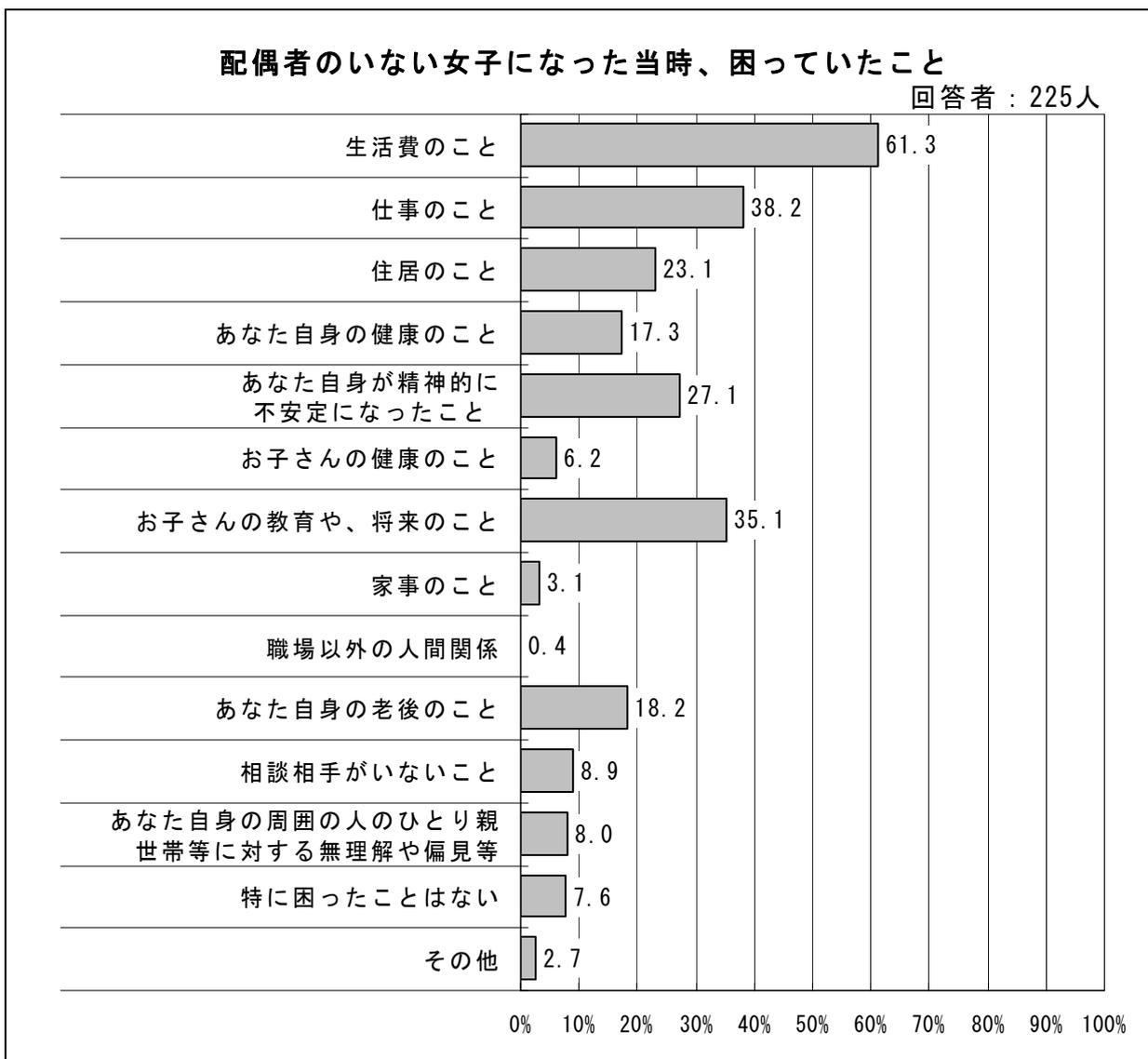
(3) 配偶者のいない女子になってからの期間

**配偶者のいない女子になってからの期間は10年以上が約7割**

配偶者のいない女子になってからの期間は、「20年以上」が37.2%と最も多く、次いで「15年～20年未満」(17.1%)、「10年～15年未満」(14.5%)、「7年～10年未満」(9.8%)の順となっており、10年未満では31.2%、10年以上では68.8%となっている。

(4) 配偶者のいない女子の困りごと・相談先

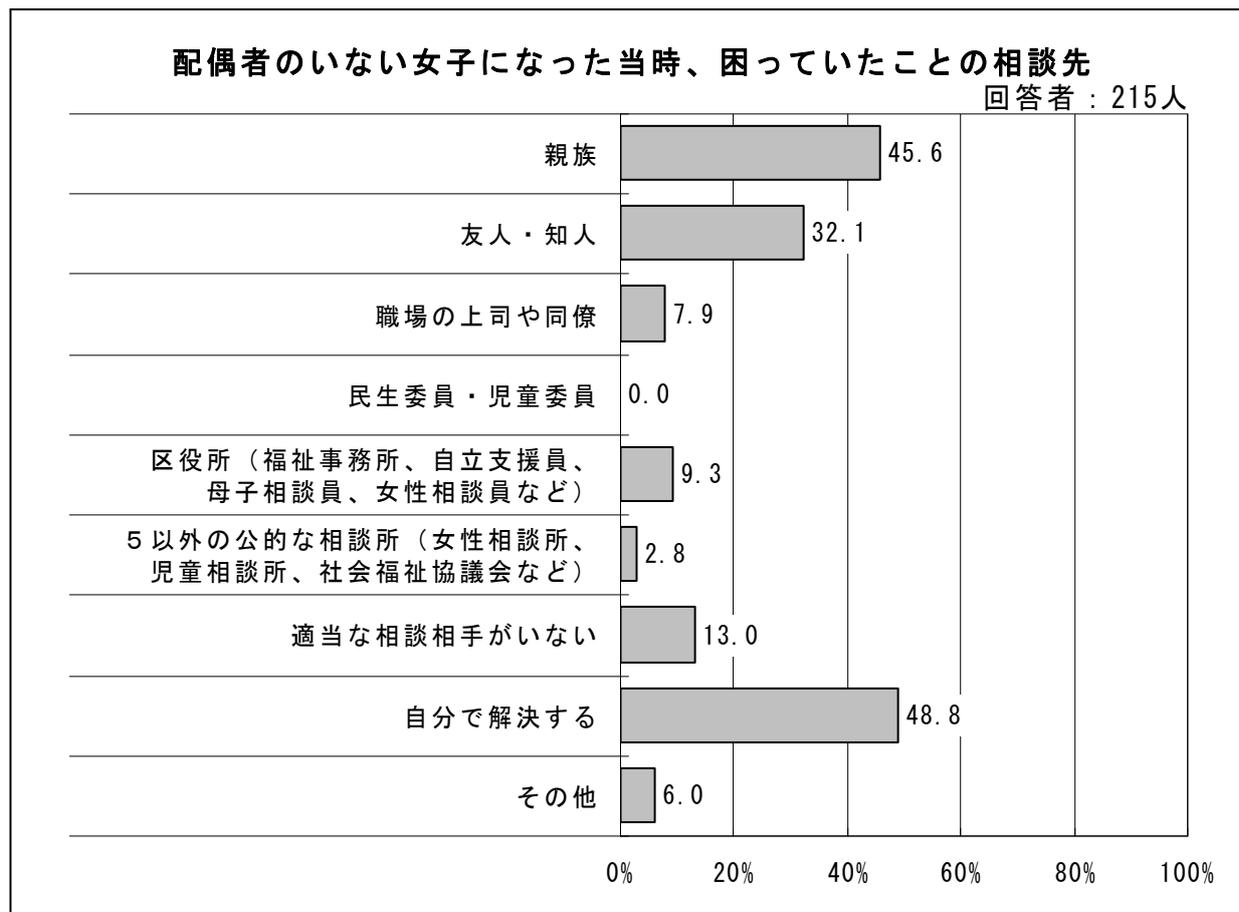
①配偶者のいない女子になった当時、困っていたこと



配偶者のいない女子になった当時、困っていたことは、生活費のことが約6割

配偶者のいない女子になった当時、困っていたことは「生活費のこと」が61.3%と最も多く、次いで「仕事のこと」(38.2%)、「お子さんの教育や、将来のこと」(35.1%)、「あなた自身が精神的に不安定になったこと」(27.1%)、「住居のこと」(23.1%)の順となっている。

②配偶者のいない女子になった当時、困っていたことの相談先

**困っていたことの相談先は、親族が約5割、自分で解決するが約5割**

配偶者のいない女子になった当時、困っていたことの相談先は「自分で解決する」が48.8%と最も多く、次いで「親族」（45.6%）、「友人・知人」（32.1%）の順となっている。

◆配偶者のいない女子になった当時、困っていたことの相談先

単位：%

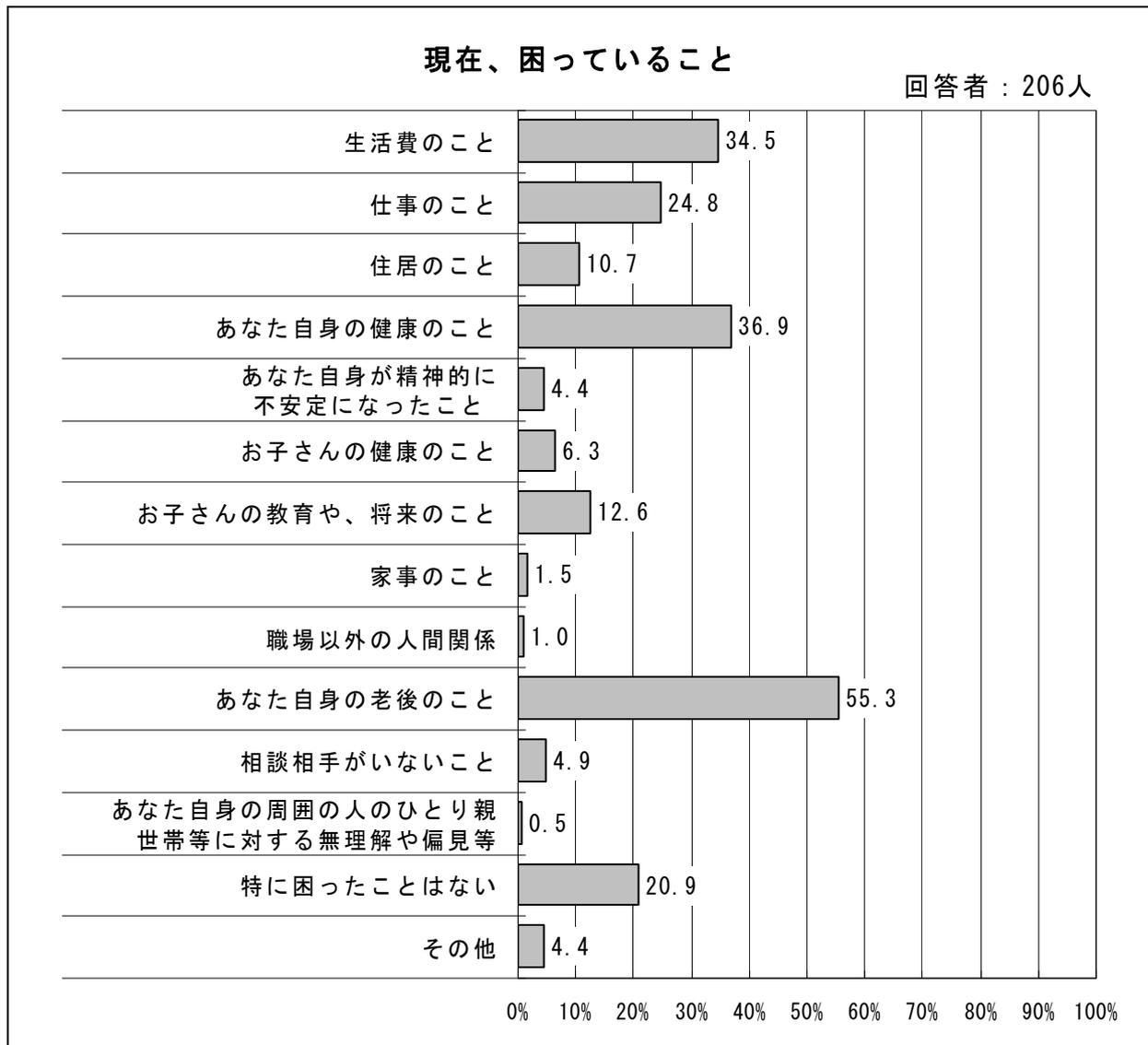
		件数	問11ア 区分2 相談先									
			親族	友人・知人	職場の上司や同僚	民生委員・児童委員	区役所（福祉事務所、自立支援員、母子相談員、女性相談員など）	5以外の公的な相談所（女性相談所、児童相談所、社会福祉協議会など）	適当な相談相手がいない	自分で解決する	その他	無回答
問11ア 区分1 当時、 困っていたこと	生活費のこと	138	34.8	4.3	1.4	0.0	10.9	0.0	10.9	34.1	0.0	3.6
	仕事のこと	86	10.5	22.1	11.6	0.0	7.0	1.2	8.1	37.2	0.0	2.3
	住居のこと	52	46.2	5.8	1.9	0.0	9.6	1.9	1.9	26.9	0.0	5.8
	あなた自身の健康のこと	40	32.5	20.0	2.5	0.0	7.5	0.0	2.5	20.0	12.5	2.5
	あなた自身が精神的に不安定になったこと	61	29.5	31.1	1.6	0.0	1.6	1.6	13.1	18.0	1.6	1.6
	お子さんの健康のこと	14	14.3	21.4	14.3	0.0	7.1	0.0	0.0	28.6	7.1	7.1
	お子さんの教育や、将来のこと	79	27.8	26.6	2.5	0.0	2.5	1.3	8.9	25.3	1.3	3.8
	家事のこと	7	57.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
	職場以外の人間関係	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	あなた自身の老後のこと	41	26.8	14.6	2.4	0.0	0.0	4.9	9.8	36.6	0.0	4.9
	相談相手がいないこと	20	10.0	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0
	周囲の人のひとり親世帯等に対する無理解や偏見等	18	11.1	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	50.0	0.0	11.1
	特に困ったことはない	17	11.8	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.6	11.8	47.1
その他	6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	50.0	0.0	

配偶者のいない女子になった当時、それぞれ困っていたことの相談先について、とくに件数の多い「生活費のこと」では「親族」が34.8%と最も多く、次いで「自分で解決する」が34.1%となっている。

また、「生活費のこと」「住居のこと」「あなた自身の健康のこと」「お子さんの教育や、将来のこと」「家事のこと」について困っていた人の相談先は「親族」が最も多くなっており、「あなた自身が精神的に不安定になったこと」は「友人」が最も多くなっている。

一方、困っていた時に「自分で解決する」は、「仕事のこと」「お子さんの健康のこと」「職場以外の人間関係」「あなた自身の老後のこと」「相談相手がいないこと」「周囲の人のひとり親世帯等に対する無理解や偏見等」が多くなっている。

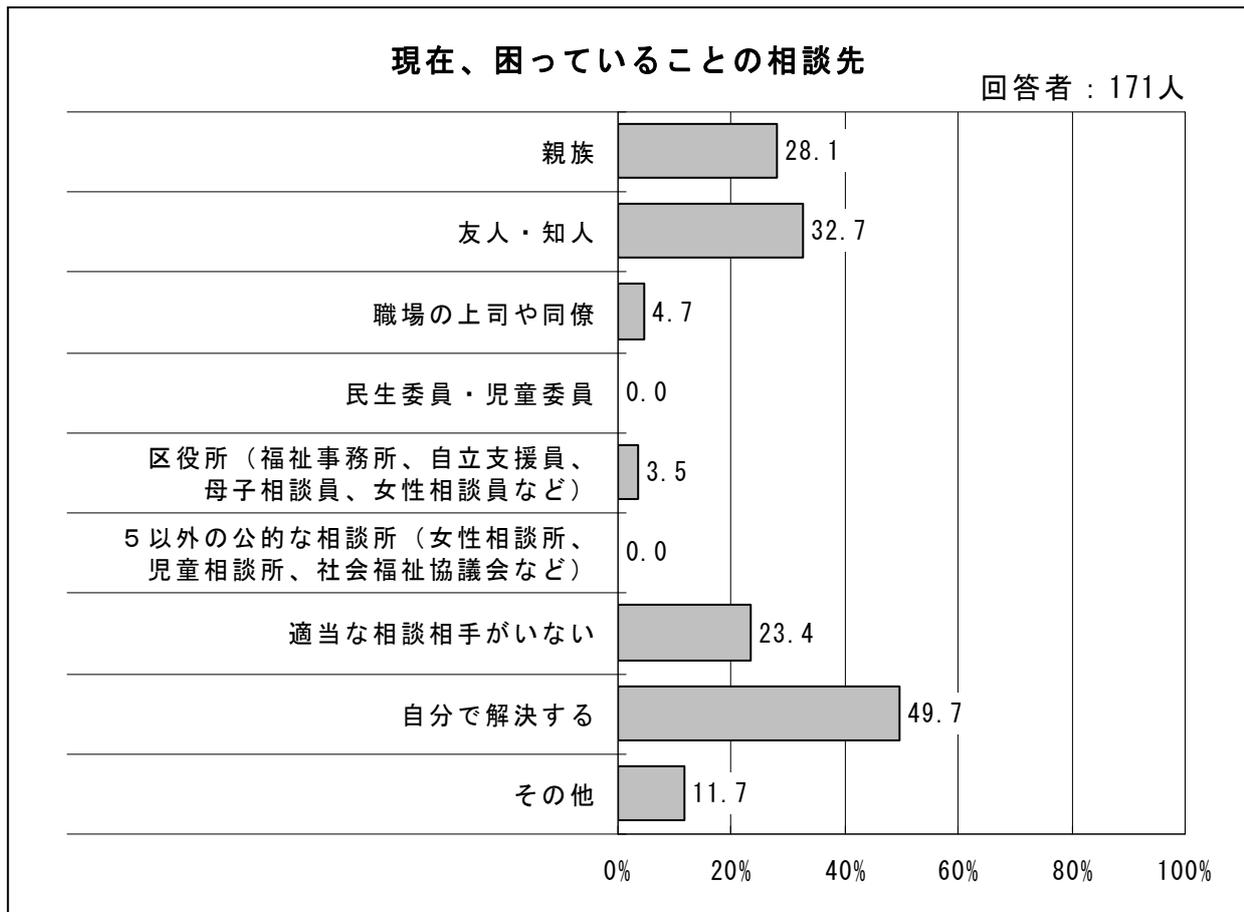
③現在、困っていること



現在、困っていることは老後のことが約6割、

現在、困っていることは「あなた自身の老後のこと」が55.3%と最も多く、次いで「あなた自身の健康のこと」(36.9%)、「生活費のこと」(34.5%)の順となっている。

④現在、困っていることの相談先



困っていることの相談先は、自分で解決するが約5割、友人・知人が約3割

現在、困っていることの相談先は「自分で解決する」が 49.7%と最も多く、次いで「友人・知人 (32.7%)」、「親族」(28.1%)、「適切な相談相手がない」(23.4%) の順となっている。

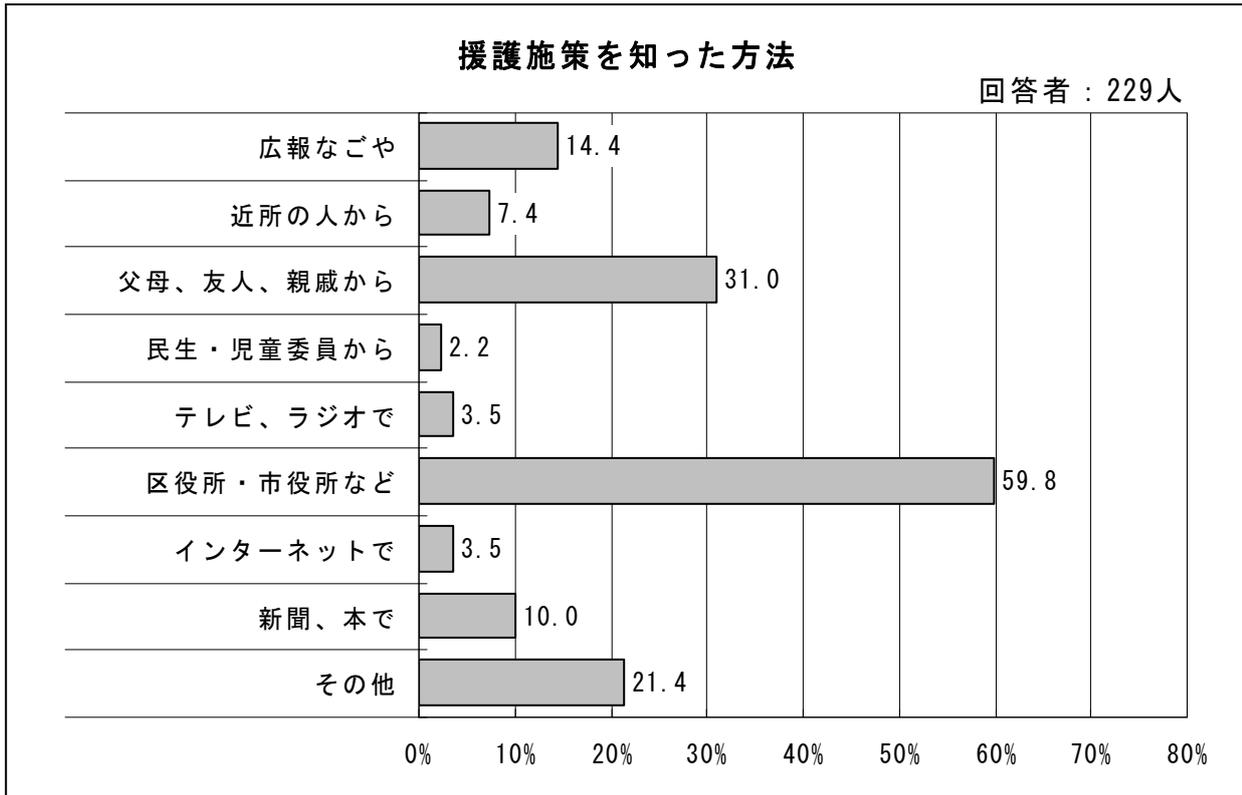
◆困っていることの相談先

単位：％

	件数	問11イ 区分2 相談先										
		親族	友人・知人	職場の上司や同僚	民生委員・児童委員	区役所（福祉事務所、自立支援員、母子相談員、女性相談員など）	5以外の公的な相談所（女性相談所、相談所、社会福祉協議会など）	適当な相談相手がない	自分で解決する	その他	無回答	
問11イ 区分1 現在、 困っていること	生活費のこと	71	18.3	11.3	0.0	0.0	4.2	0.0	9.9	43.7	4.2	8.5
	仕事のこと	51	3.9	25.5	11.8	0.0	0.0	0.0	11.8	35.3	3.9	7.8
	住居のこと	22	31.8	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	27.3	36.4	0.0	0.0
	あなた自身の健康のこと	76	21.1	25.0	1.3	0.0	1.3	0.0	5.3	27.6	14.5	3.9
	あなた自身が精神的に不安定になったこと	9	11.1	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	33.3	11.1	0.0
	お子さんの健康のこと	13	7.7	30.8	0.0	0.0	7.7	0.0	15.4	15.4	0.0	23.1
	お子さんの教育や、将来のこと	26	11.5	30.8	0.0	0.0	3.8	0.0	19.2	23.1	7.7	3.8
	家事のこと	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	職場以外の人間関係	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	あなた自身の老後のこと	114	18.4	16.7	0.9	0.0	1.8	0.0	21.1	34.2	3.5	3.5
	相談相手がないこと	10	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	30.0	0.0	20.0
	周囲の人のひとり親世帯等に対する無理解や偏見等	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	特に困ったことはない	44	2.3	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.4	4.5	75.0
	その他	9	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	33.3	11.1	11.1

寡婦世帯が悩んでいることは「あなた自身の老後のこと」が多く、相談先は「自分で解決する」人が多くなっている。

(5) 援護施策を知った方法

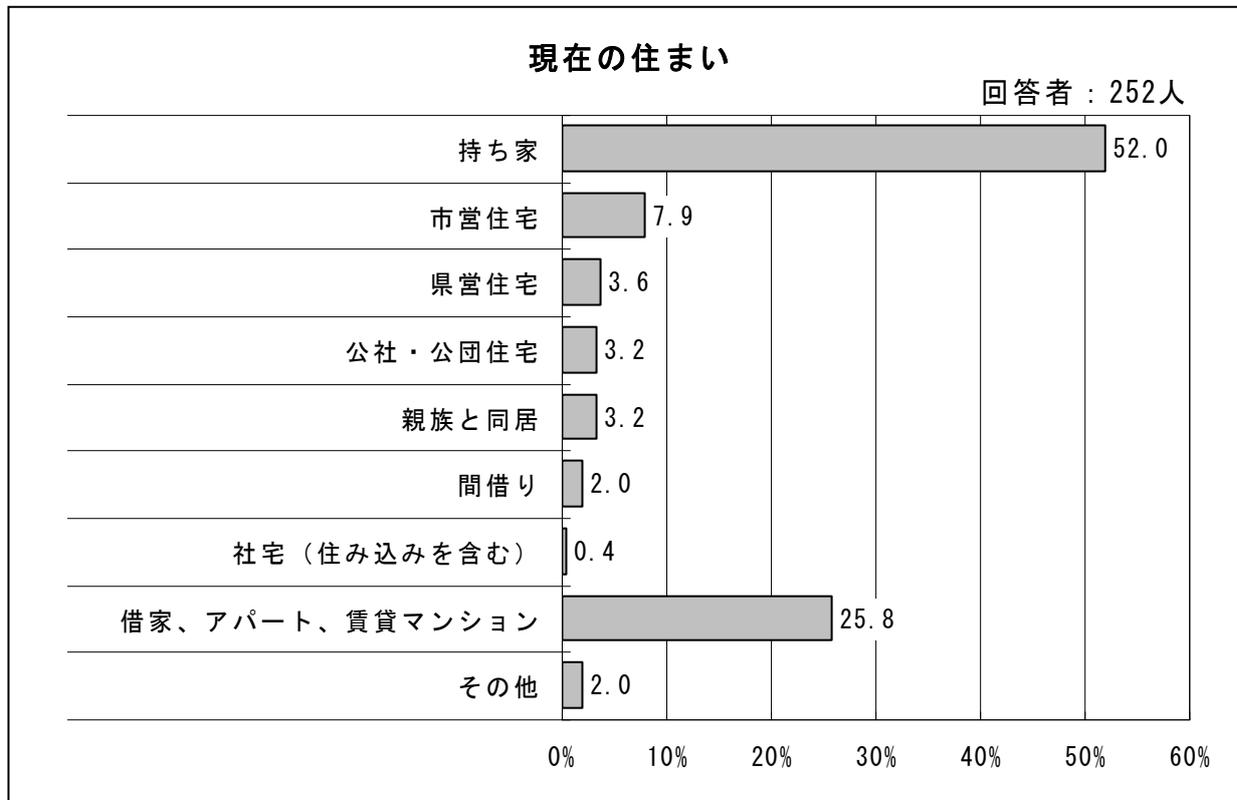


援護施策を知った方法は、区役所・市役所が約6割、父母・友人・親戚が約3割

配偶者のいない女子になった当時、手当や年金など母子・寡婦世帯に対する援護施策を知った方法は、「区役所・市役所など」が59.8%と最も多く、次いで「父母、友人、親戚から」(31.0%)、「広報なごや」(14.4%)の順となっている。

3 住まいについて

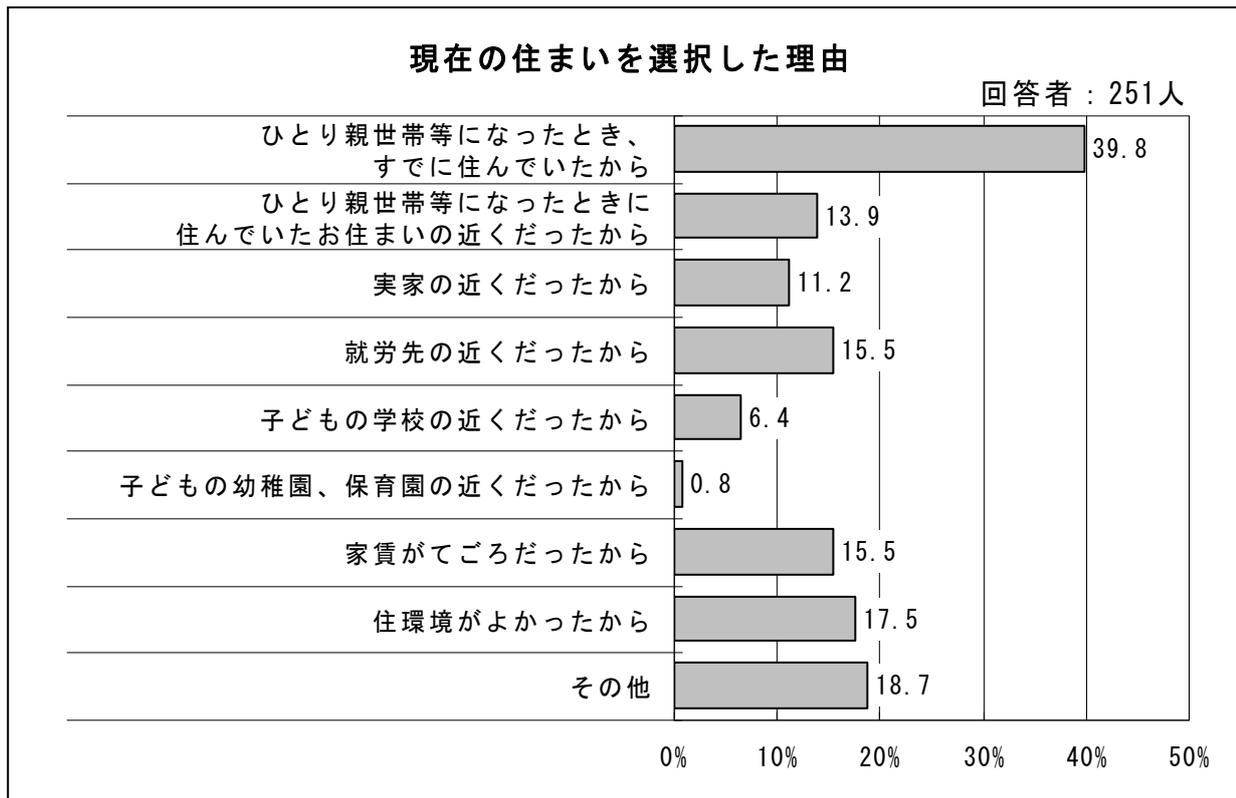
(1) 現在の住まい



住居は持ち家が約5割、借家・アパート・賃貸マンションが約3割

寡婦世帯の住居は、「持ち家」が 52.0%と最も多く、次いで「借家、アパート、賃貸マンション」が 25.8%となっている。

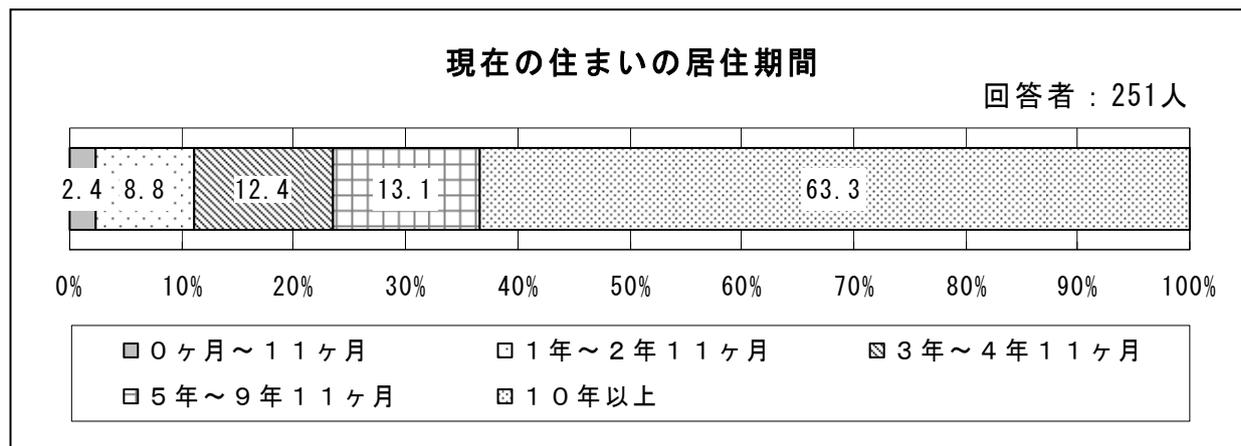
(2) 現在の住まいを選択した理由



寡婦世帯になったとき現在の住まいにすでに住んでいた人が約4割

現在の住まいを選択した理由をみると、「ひとり親世帯等になったとき、すでに住んでいたから」が39.8%と最も多く、次いで「住環境が良かったから」が17.5%となっている。

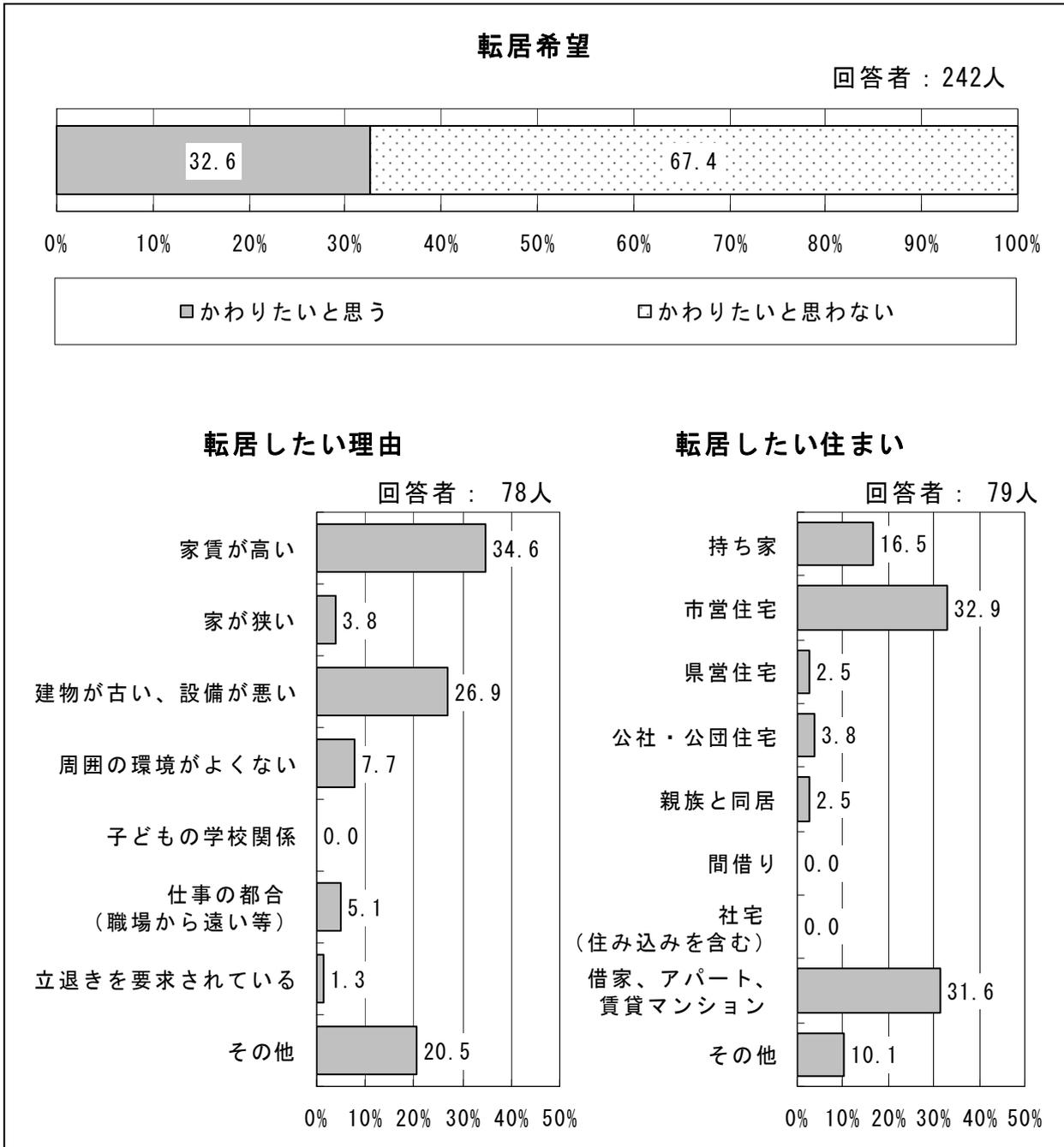
(3) 現在の住まいの居住期間



現在の住まいに住みはじめて10年以上が約6割

現在の住まいの居住期間をみると、「10年以上」が63.3%と最も多く、次いで「5年以上9年11ヶ月」が13.1%となっている。

(4) 転居の希望・住まいの不満

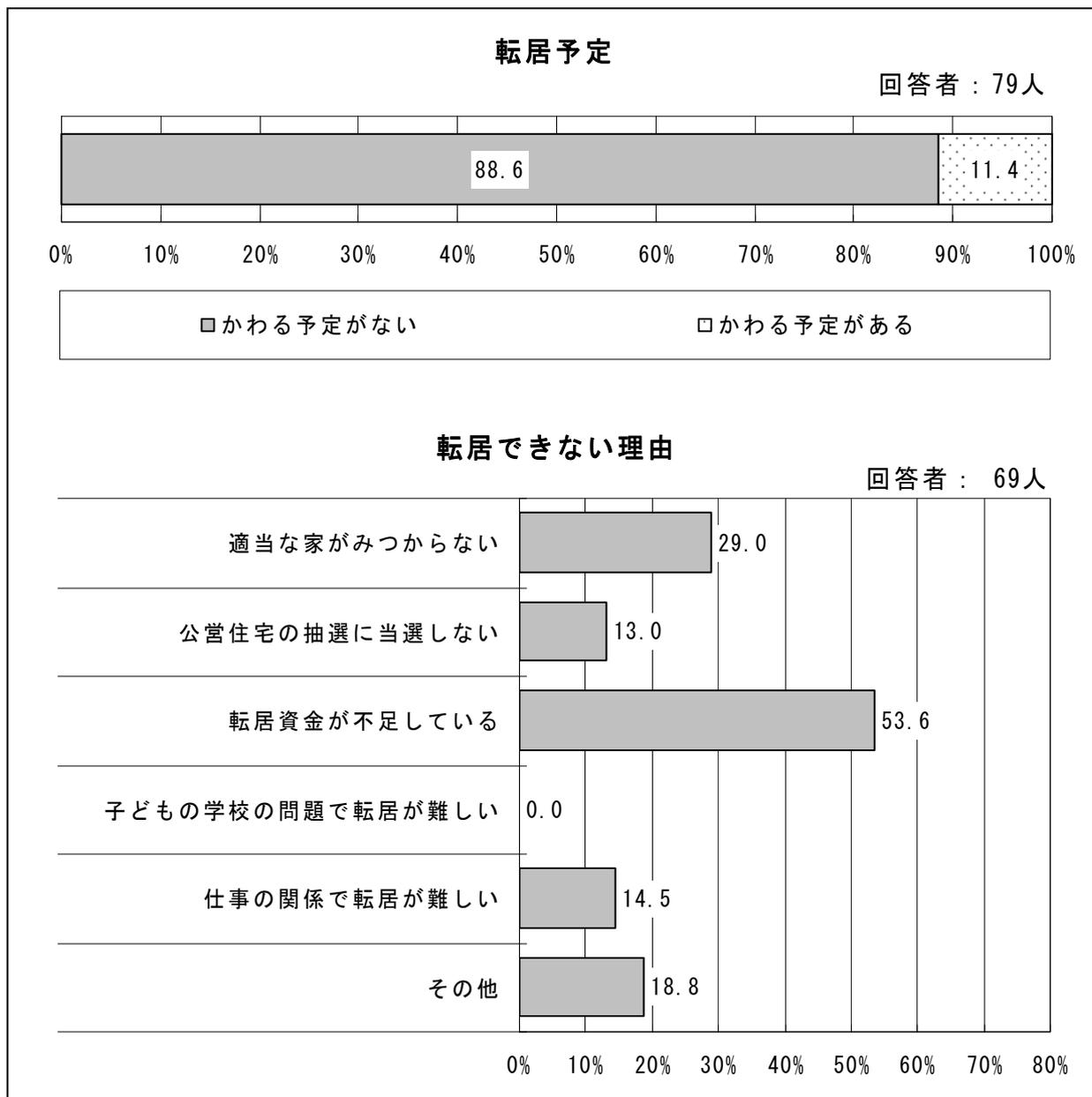


現在の住まいをかわりたい人は約3割

変わりたい希望の住まいは、市営住宅、借家・アパート・賃貸マンションが約3割

現在の住まいを「かわりたいと思う」人は32.6%、「かわりたいと思わない」人は67.4%となっている。また、「かわりたいと思う」人の理由は、「家賃が高い」が34.6%と最も多く、次いで「建物が古い、設備が悪い」が26.9%となっており、変わりたい希望の住まいは、「市営住宅」が32.9%と最も多く、次いで「借家、アパート、賃貸マンション」(31.6%)、「持ち家」(16.5%)の順となっている。

(5) 転居する予定



現在の住まいを変わりたい人で、変わる予定がある人は約1割

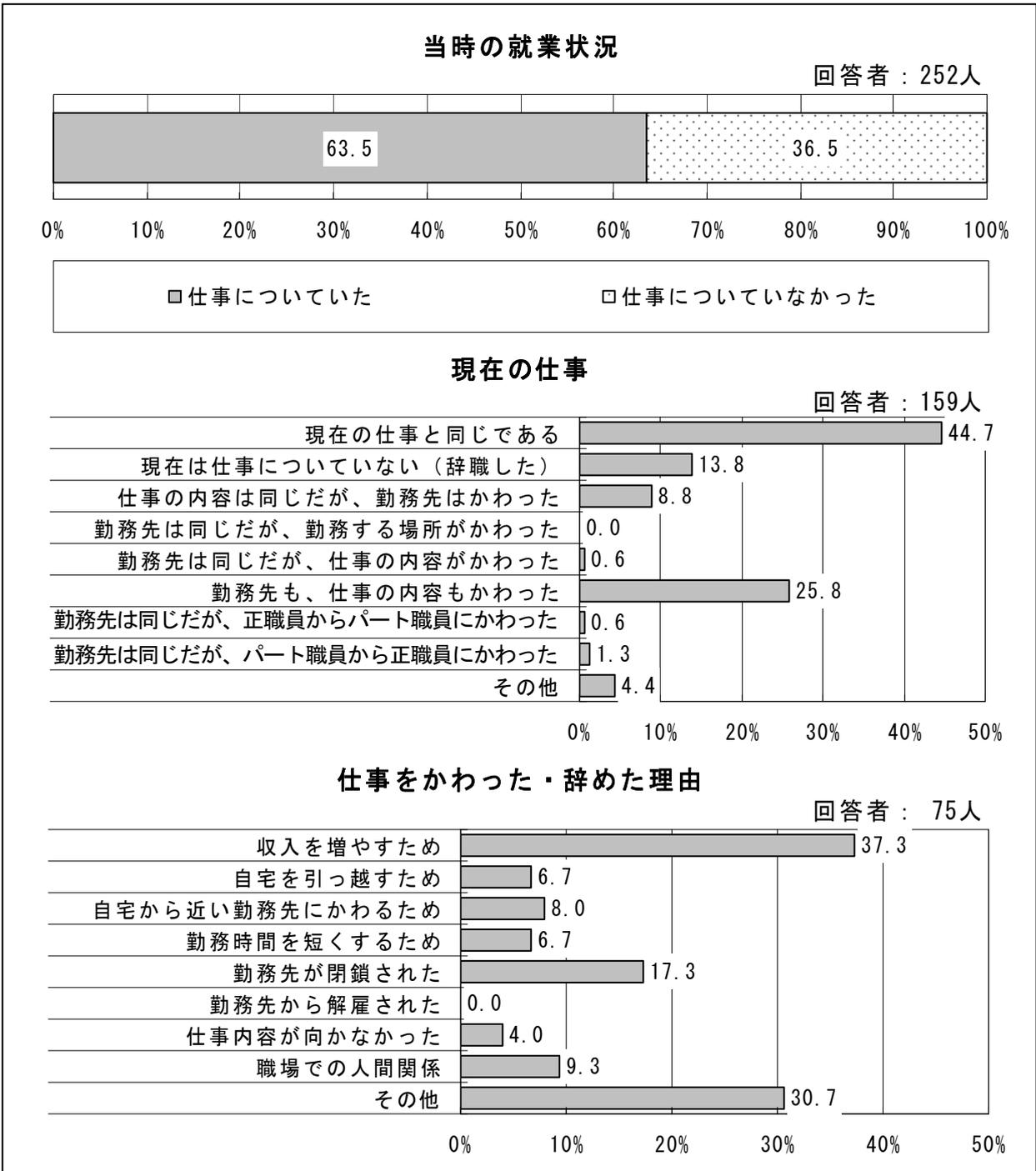
また、転居できない理由は、転居資金不足が約5割

現在の住まいを変えたい人の転居予定をみると、住まいを「かわる予定がある」人は11.4%となっているのに対し、「かわる予定がない」人は88.6%となっている。

また、変わる予定がない人で転居できない理由をみると、「転居資金が不足している」が53.6%と最も多く、次いで「適当な家が見つからない」(29.0%)、「仕事の関係で転居が難しい」(14.5%)の順となっている。

4 寡婦の就業状況

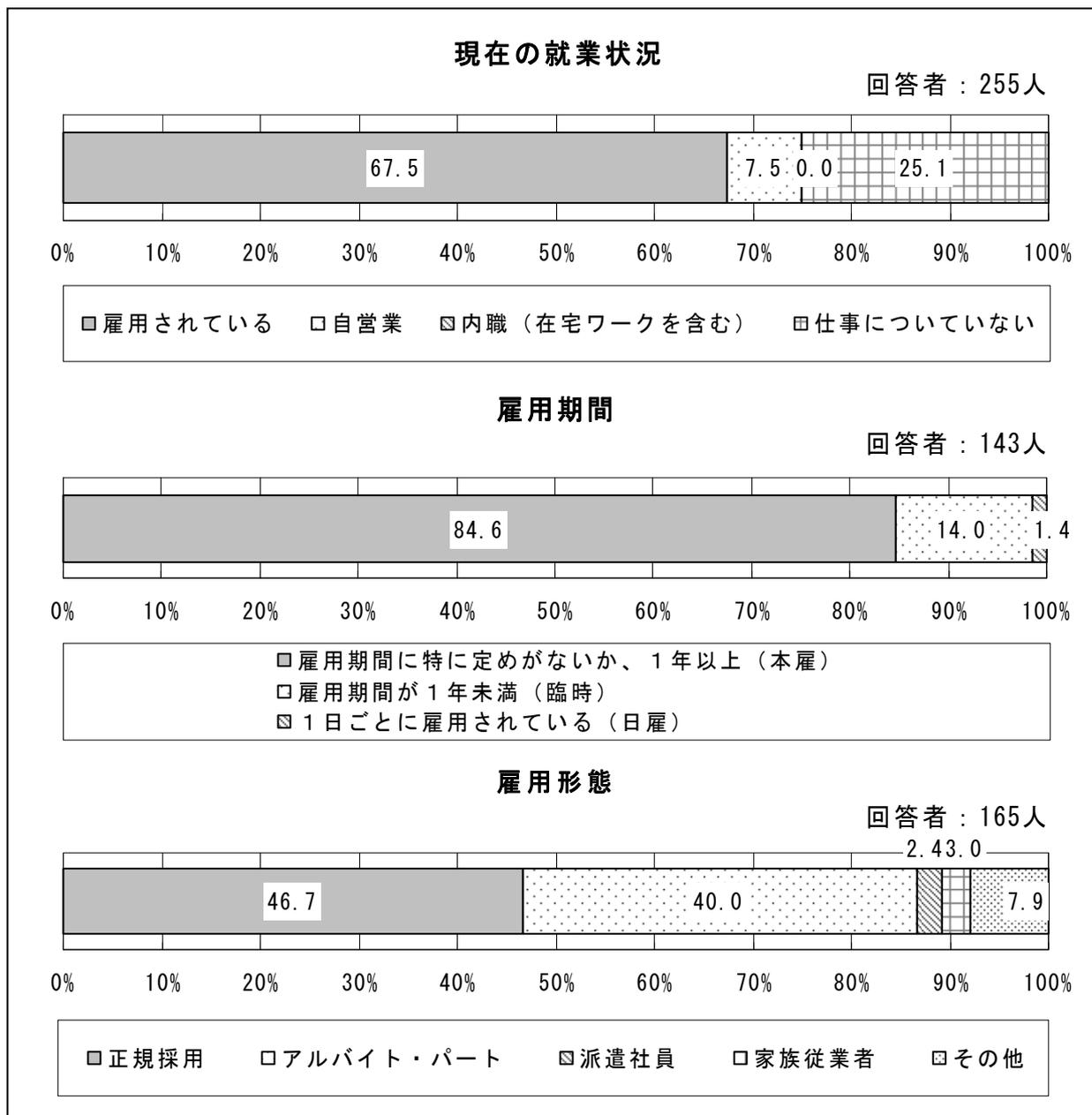
(1) 配偶者のいない女子になった当時と現在の仕事



当時仕事に就いていた人は約6割、そのうち同じ仕事を続けている人は約4割

配偶者のいない女子になった当時の就業状況について、「仕事についていた」は 63.5%となっており、そのうち「現在の仕事と同じである」は、44.7%となっている。また、仕事を変更した理由について、「収入を増やすため」が 37.3%と最も高くなっている。

(2) 現在の就業状況

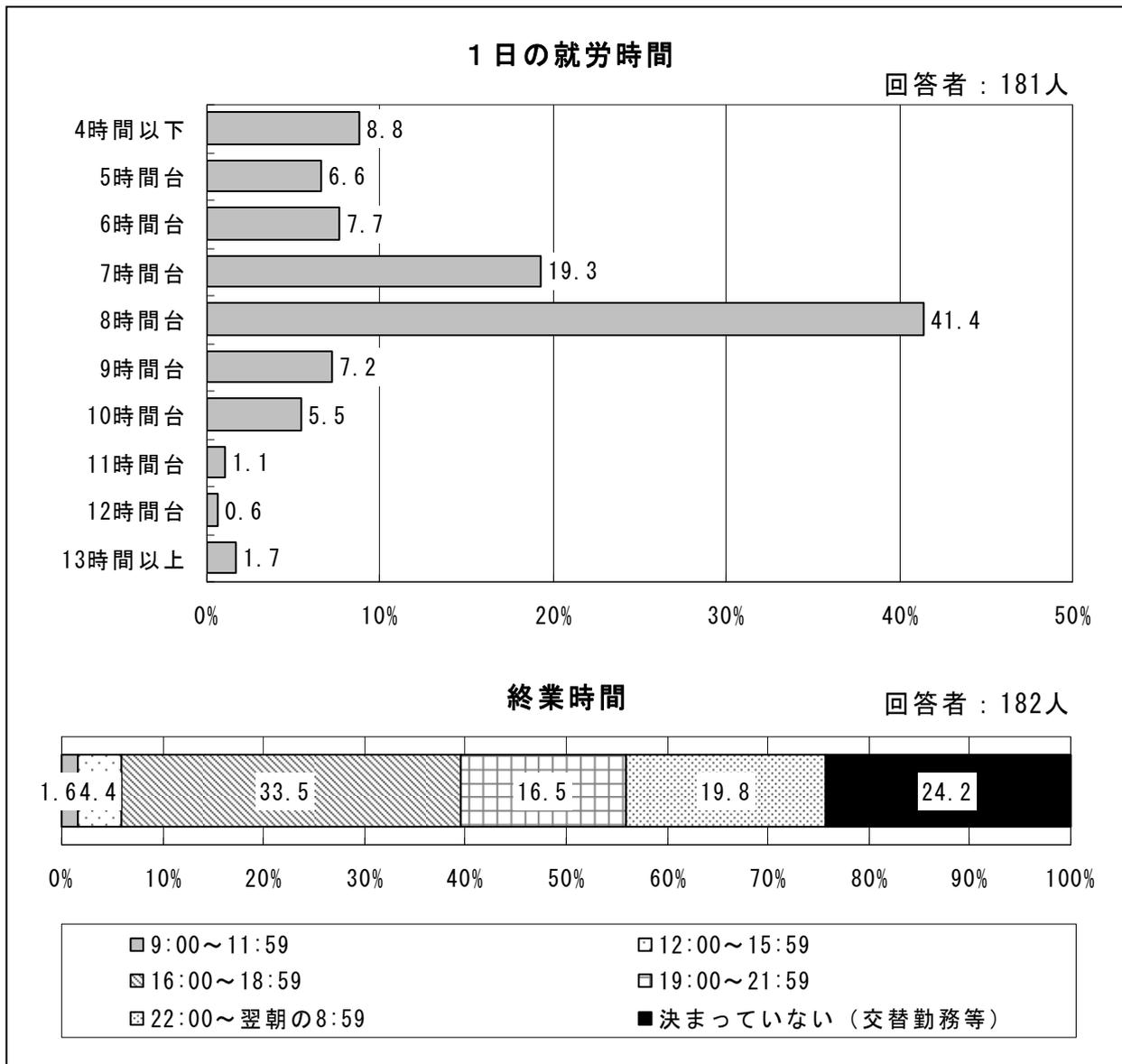


**寡婦の約7割は仕事に就いており、雇用期間が1年以上の人が約8割
また、雇用形態は正規採用が約5割**

寡婦の就業状況については、「雇用されている」が67.5%と最も多く、「自営業」(7.5%)を合わせると仕事に就いている人は75.0%となっている。

雇用されている人の雇用期間については、「雇用期間に特に定めがないか、1年以上(本雇)」が84.6%と最も多くなっている。また、雇用形態については、「正規採用」が46.7%と最も高くなっており、次いで「アルバイト・パート」(40.0%)、「派遣社員」(2.4%)の順となっている。

(3) 1日の就労時間と終業時間

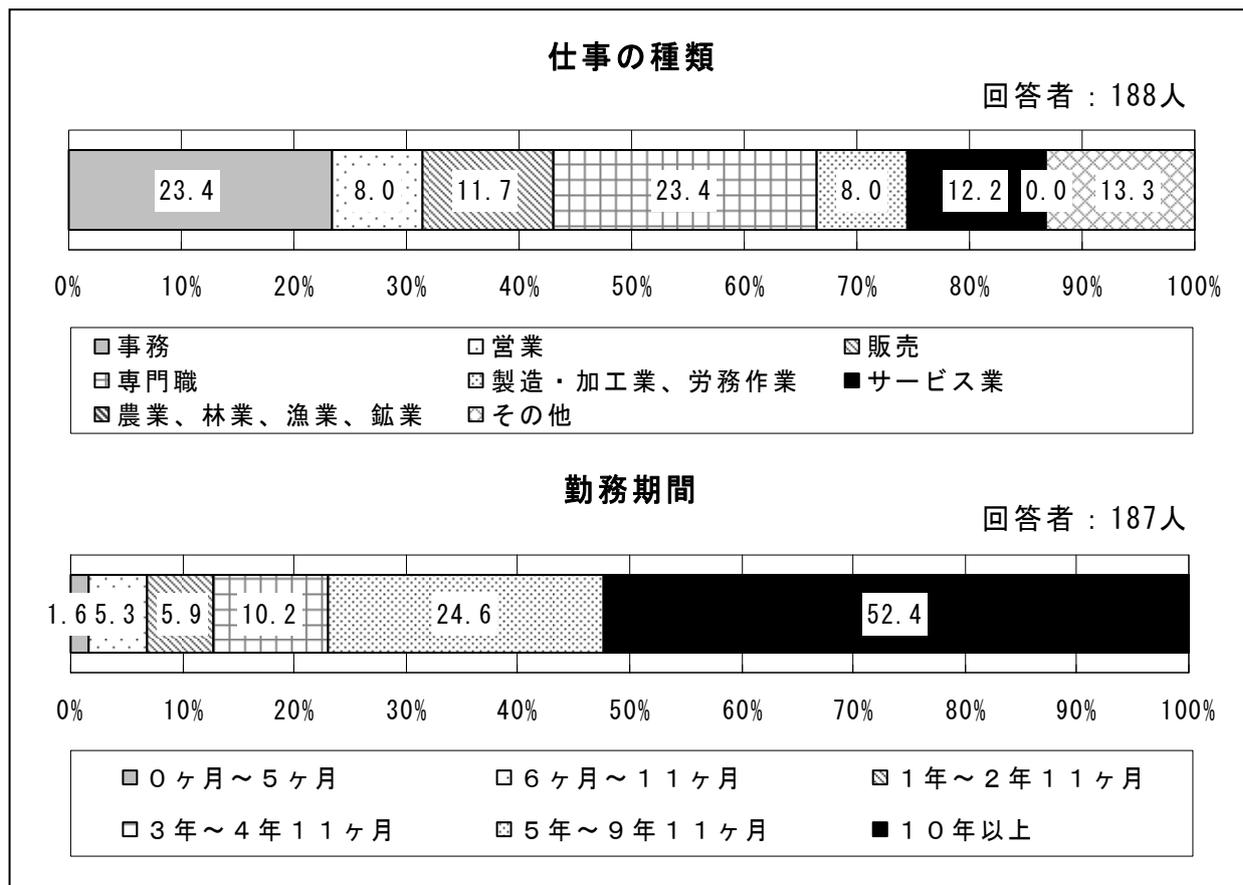


1日の就労時間は8時間台が約4割、終業時間は16:00から19:00前までが約3割

1日の就労時間については、「8時間台」が41.4%ともっとも多く、次いで「7時間台」(19.3%)、「4時間以下」(8.8%)の順となっている。

終業時間については、「16:00～18:59」が33.5%と最も多く、次いで「決まっていない(交替勤務等)」(24.2%)、「22:00～翌朝の8:59」(19.8%)の順となっている。

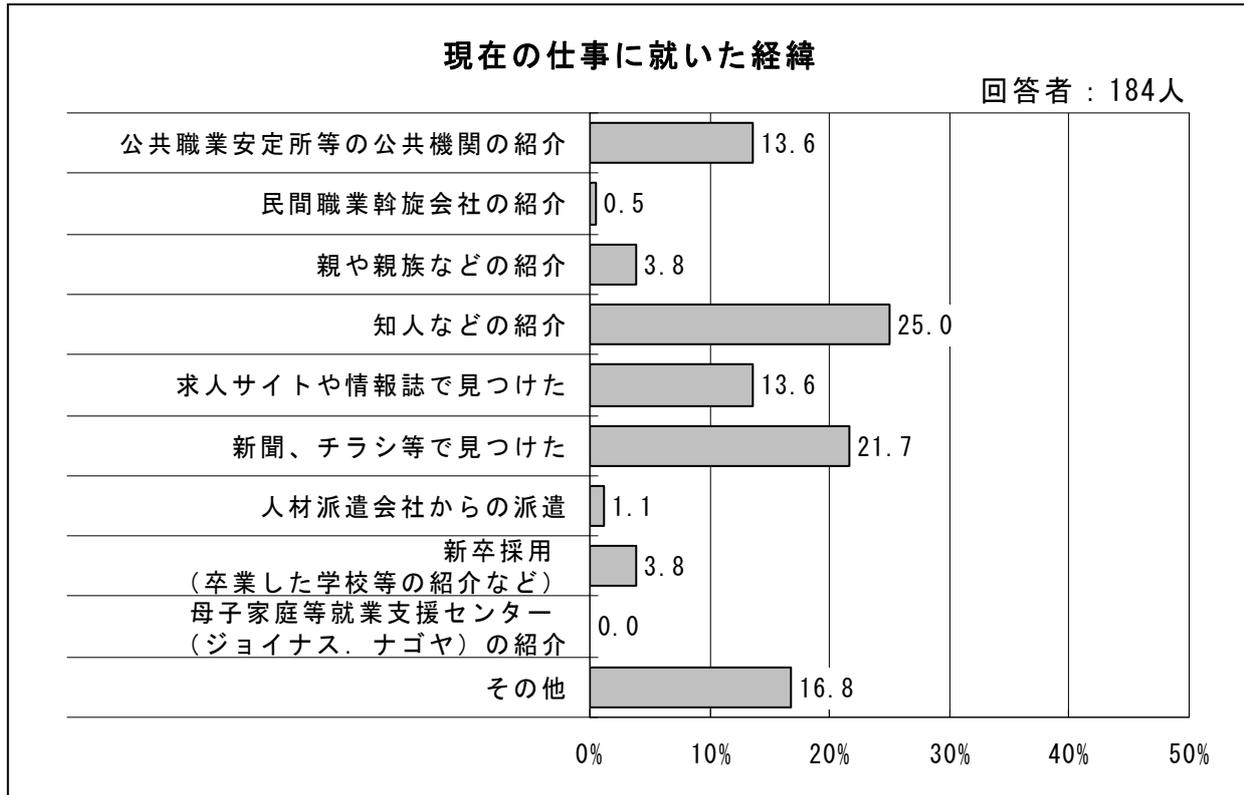
(4) 仕事の種類と勤務期間

**職種は事務、専門職が約2割****また、勤務している期間は10年以上が約5割**

仕事の種類については、「事務」と「専門職」が23.4%と最も多く、次いで「サービス業」(12.2%)、「販売」(11.7%)の順となっている。

勤務している期間をみると、「10年以上」が52.4%と最も多く、次いで「5年～9年11ヶ月」(24.6%)、「3年～4年11ヶ月」(10.2%)の順となっている。

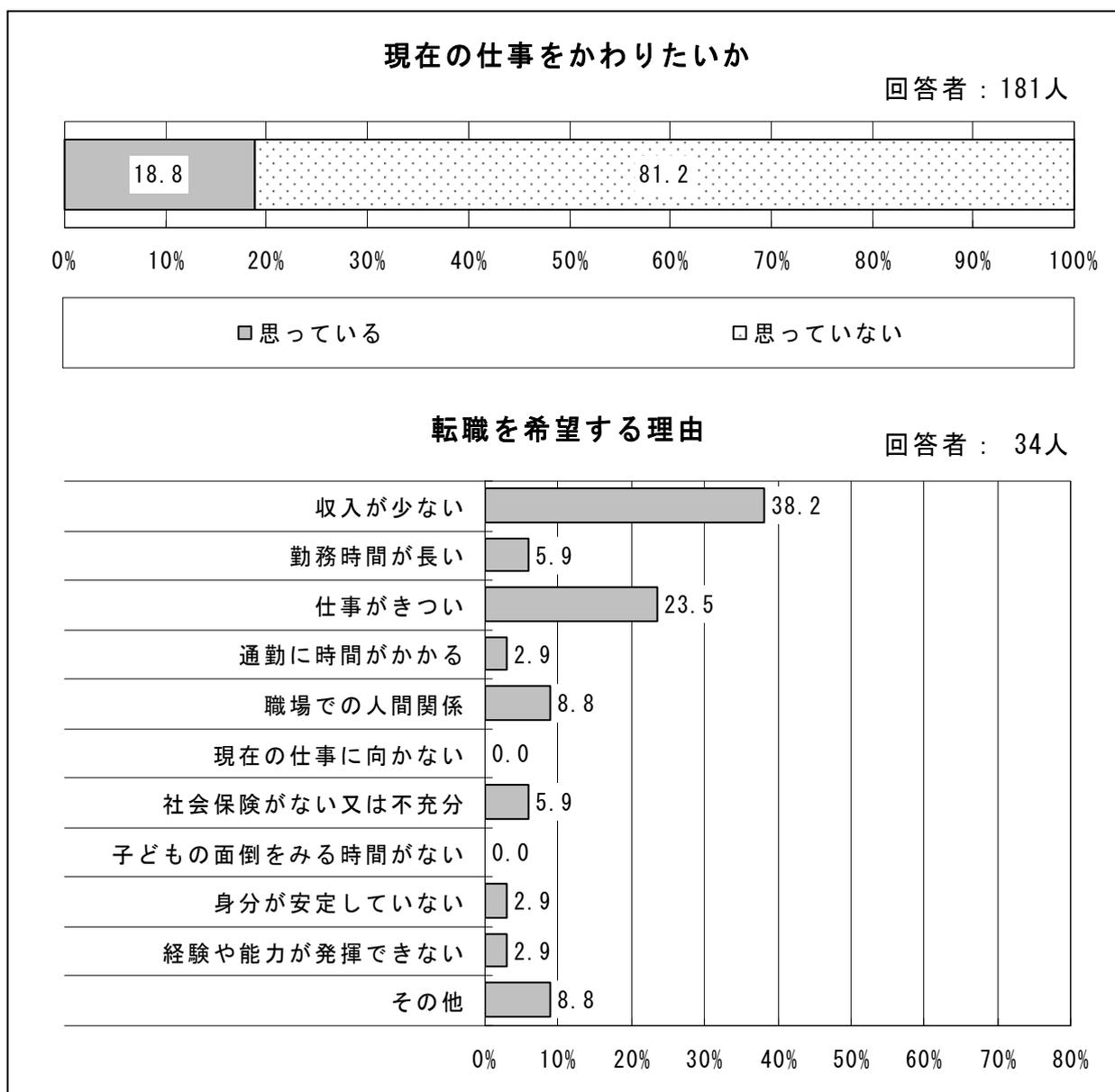
(5) 現在の仕事に就いた経緯

**仕事に就いた経緯は知人などの紹介が約3割**

仕事に就いた経緯については、「知人などの紹介」が 25.0%と最も多く、次いで「新聞、チラシ等で見つけた」(21.7%)、「公共職業安定所等の公共機関の紹介」(13.6%)と「求人サイトや情報誌で見つけた」(13.6%)の順となっている。

(6) 仕事の悩みと転職の希望

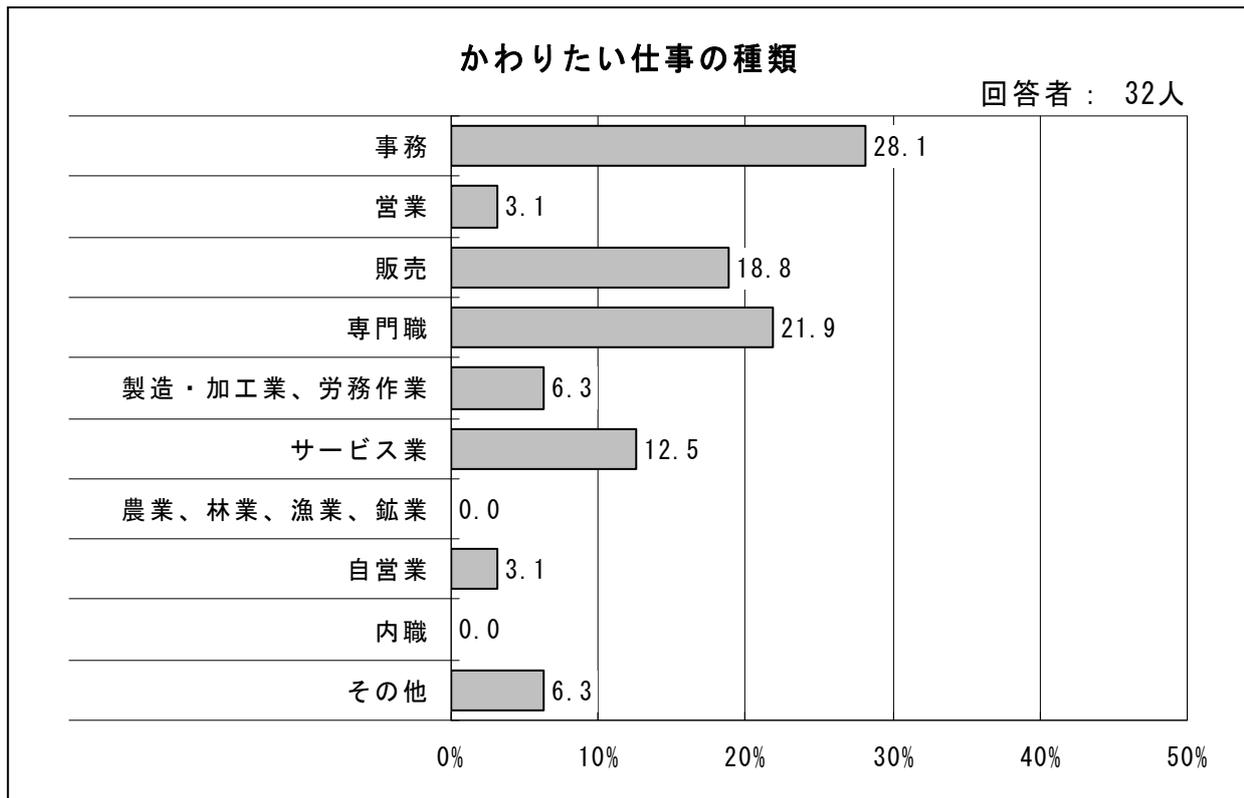
① 転職の希望

**転職を希望する人は約2割、転職したい理由は収入が少ないことが約4割**

現在、仕事に就いている人のうち、現在の仕事をかわりたいと「思っている」人は18.8%、「思っていない」人は81.2%となっている。

また、転職を希望している人の転職理由については、「収入が少ない」が38.2%と最も多く、次いで「仕事がきつい」が23.5%となっている。

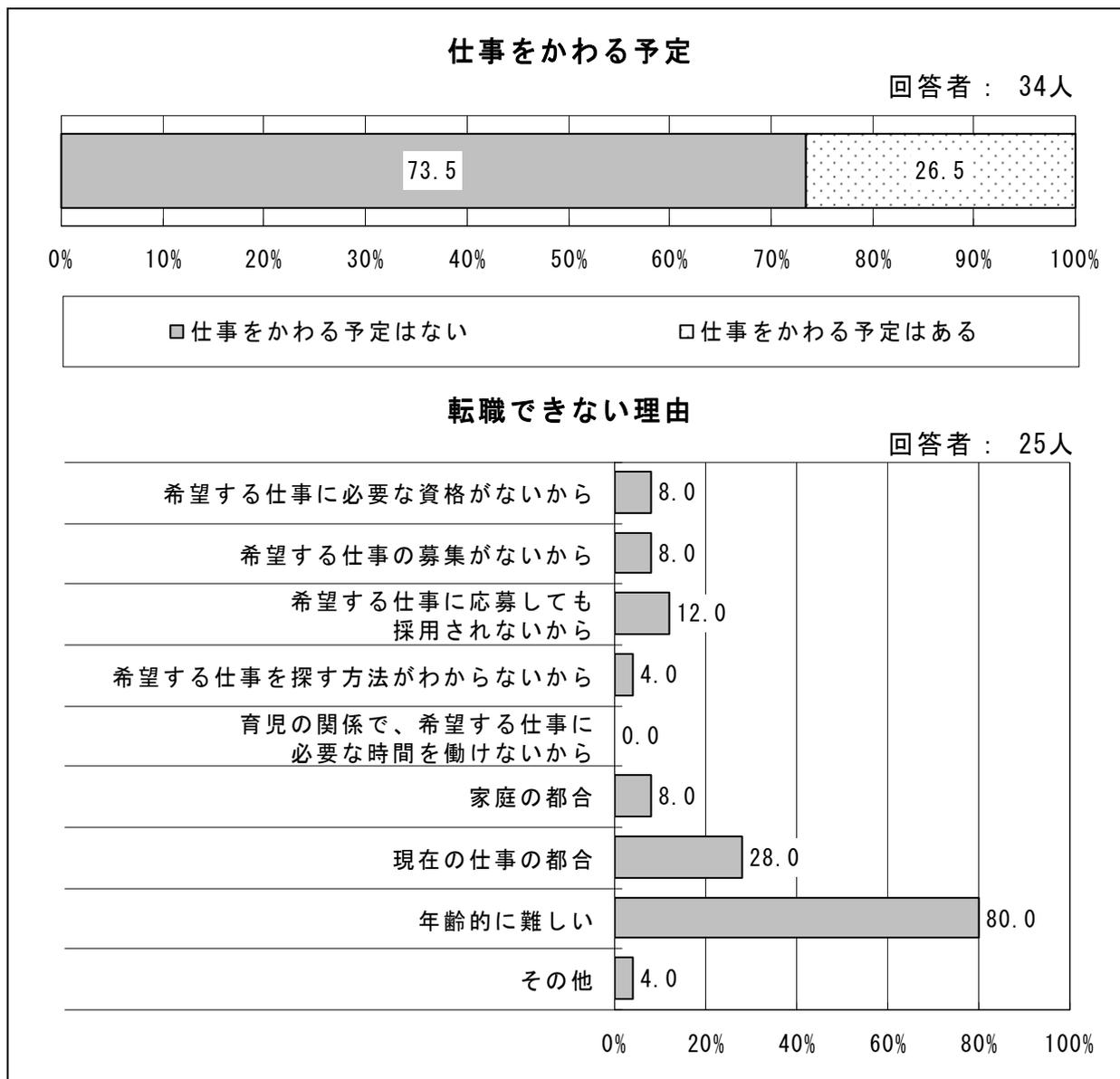
②希望の職種



かわりたい仕事の職種は、事務関係が約3割、専門職が約2割

仕事を変わりたいと思っている人の希望する職種は、「事務」が 28.1%と最も多く、次いで「専門職」が 21.9%となっている。

③転職予定

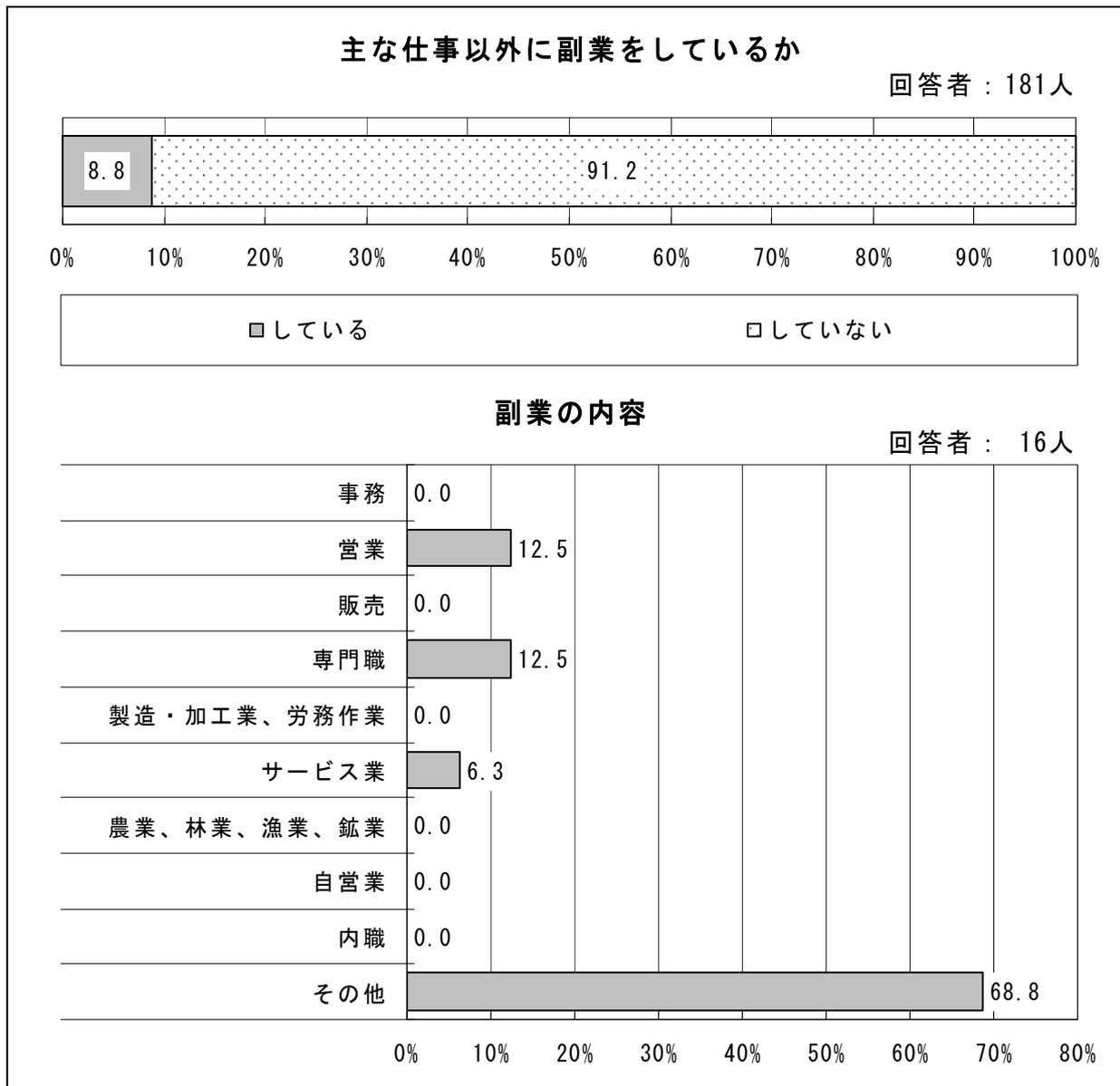


仕事をかわる予定はない人が約7割、その理由は、年齢的に難しいが8割

仕事をかわりたいと思っている人の転職予定の有無をみると、「仕事をかわる予定はある」人は26.5%で、「仕事をかわる予定はない」人は73.5%となっている。

また、仕事をかわる予定はない人で、転職できない理由をみると、「年齢的に難しい」が80.0%と最も多く、次いで「現在の仕事の都合」(28.0%)、「希望する仕事に応募して採用されないから」(12.0%)の順となっている。

(7) 副業

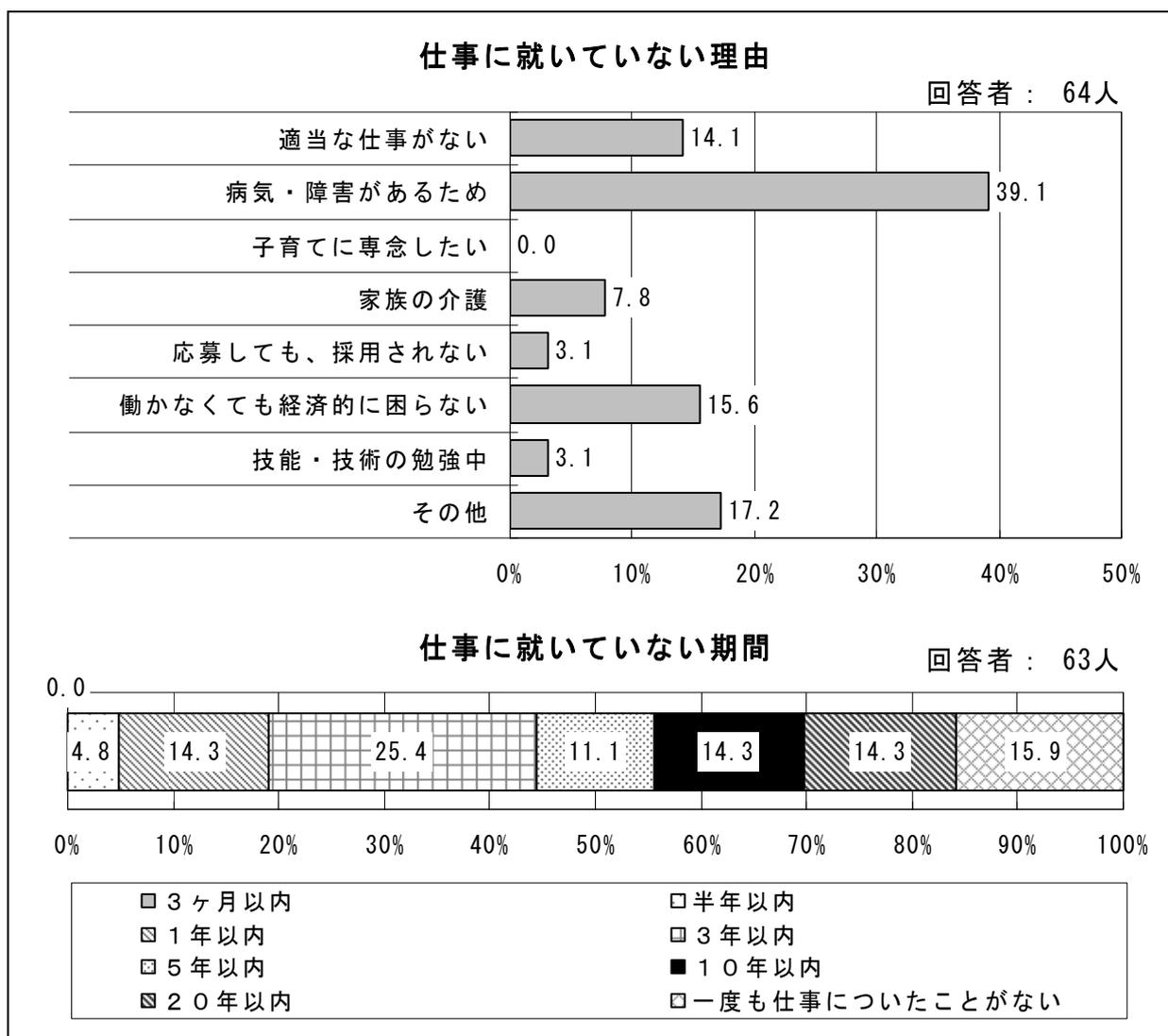


副業をしている人が約1割

主な仕事以外に別の仕事（副業）をしているかについて、「している」が 8.8%、「していない」が 91.2%となっている。

(8) 仕事に就いていない方の状況

①仕事に就いていない理由と期間



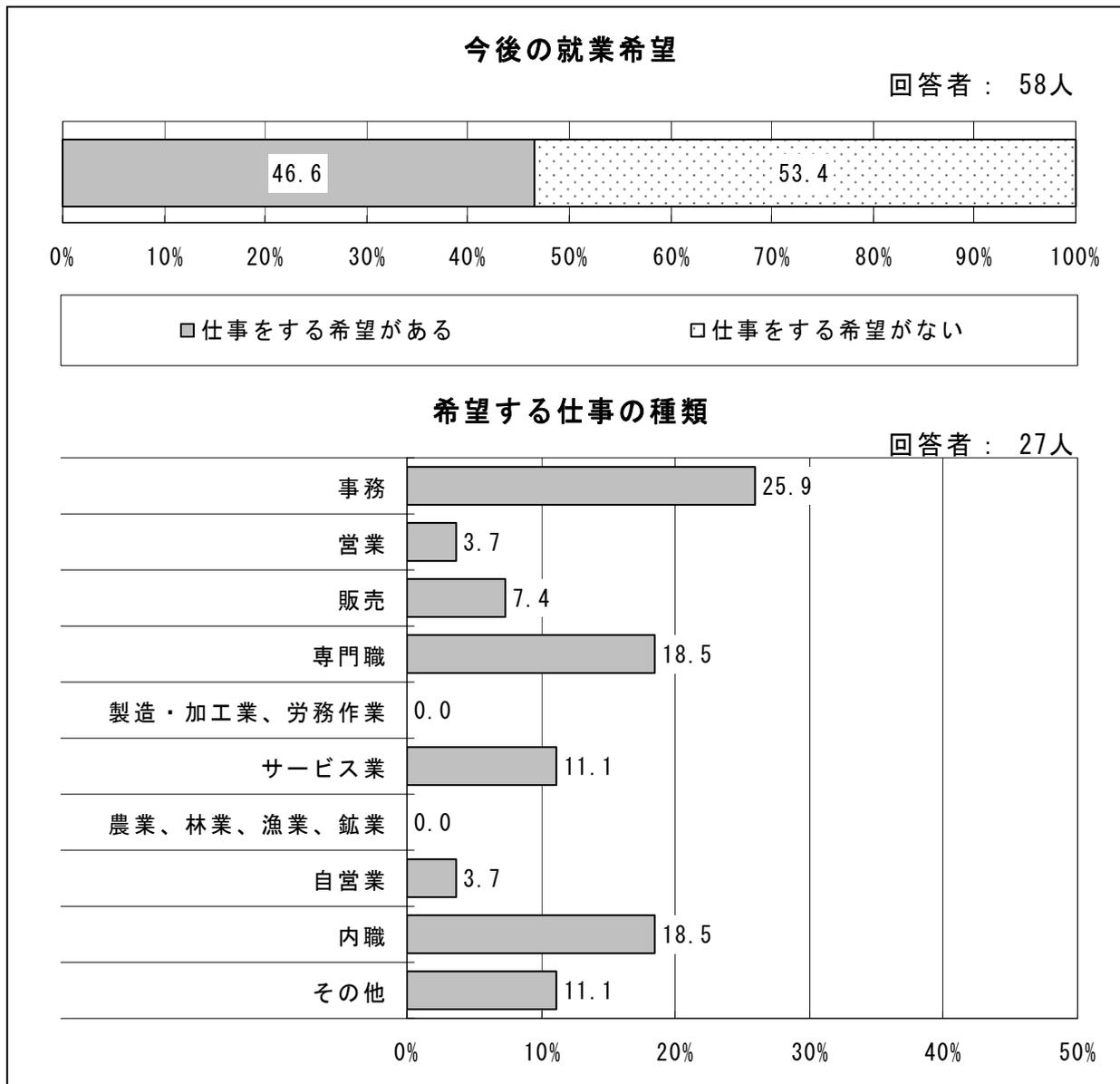
仕事に就いていない理由は、病気・障害があるためが約4割

仕事に就いていない期間は、1年以内が約2割

仕事に就いていない理由として、「病気・障害があるため」が39.1%と最も多く、次いで「働かなくても経済的に困らない」(15.6%)、「適当な仕事がない」(14.1%)の順となっている。

また、仕事に就いていない期間として、「3年以内」が25.4%と最も多くなっている。

②今後の就業希望

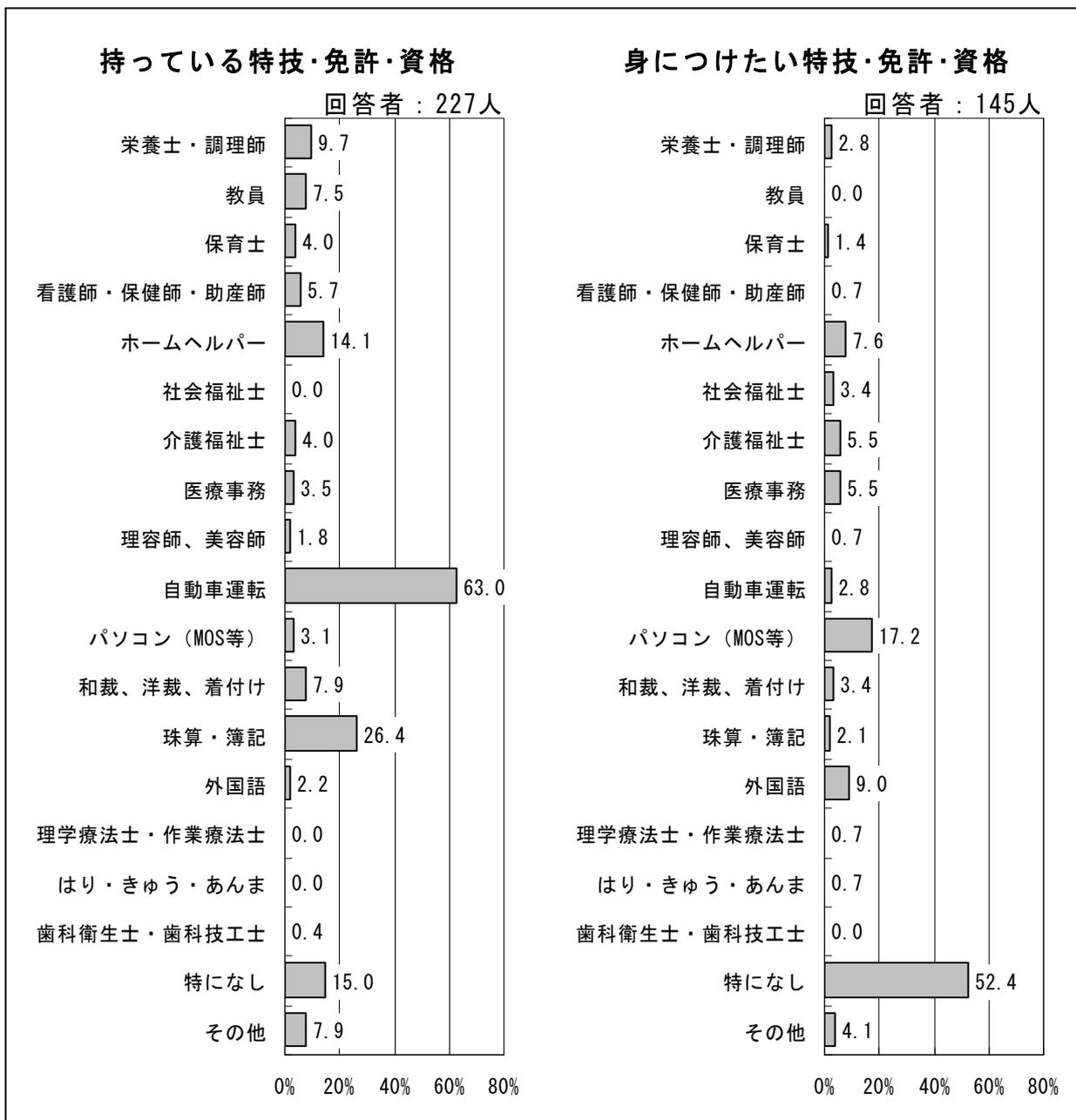


仕事をする希望がある人は約5割、希望の職種は事務が約3割

現在、仕事に就いていない人で、今後就業希望の有無をみると、「仕事をする希望がある」人は46.6%、「仕事をする希望がない」人は53.4%となっている。

また、仕事を希望する希望がある人で、希望の職種をしてみると、「事務」が25.9%と最も多くなっている。

(9) 特技・免許・資格の取得状況及び今後の取得希望



自動車運転免許は約6割が持っている

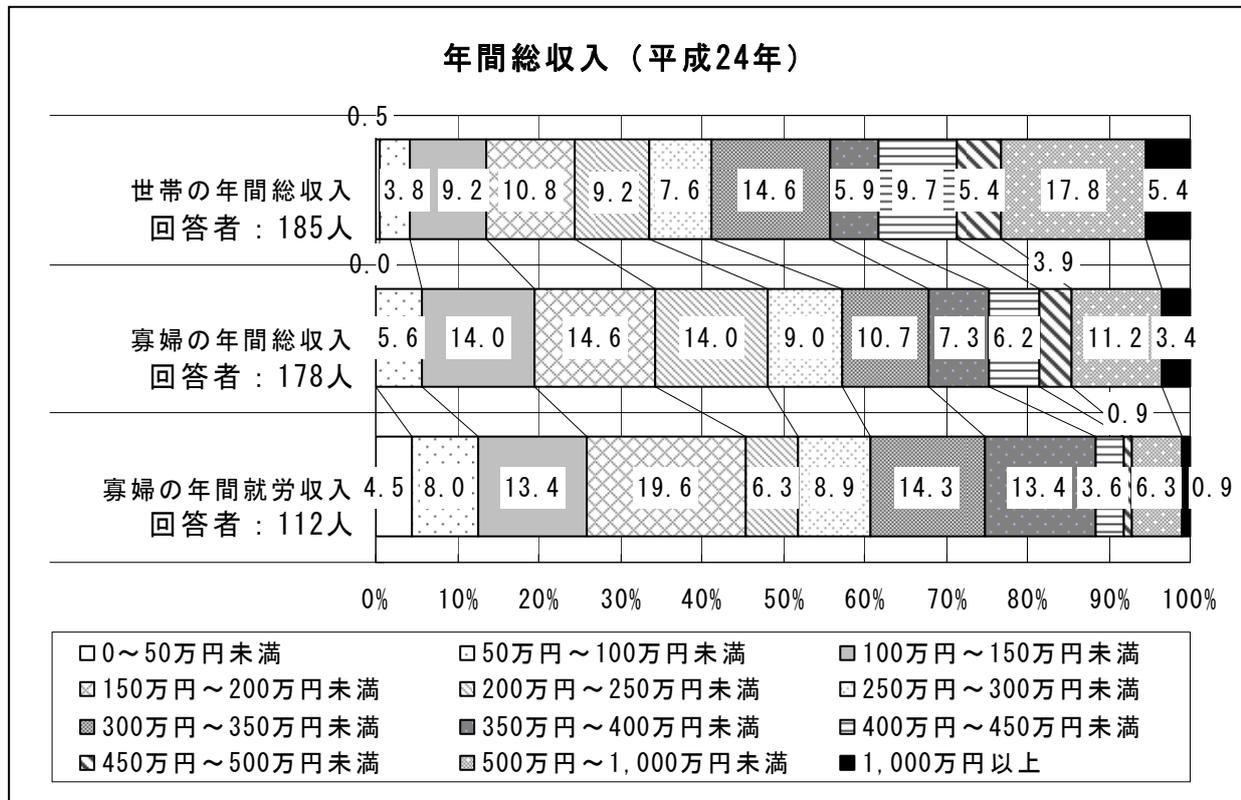
今後取得したい特技・免許・資格は、特になしが約5割

現在、持っている特技・免許・資格については、「自動車運転」が 63.0%と最も多く、次いで「珠算・簿記」が 26.4%となっている。

また、今後、身につけたい特技・免許・資格については、「パソコン (MOS等)」が 17.2%と最も多く、次いで「外国語」が 9.0%となっている。一方、「特になし」と回答した人は約5割 (52.4%)を占めている。

5 家計

(1) 年間総収入



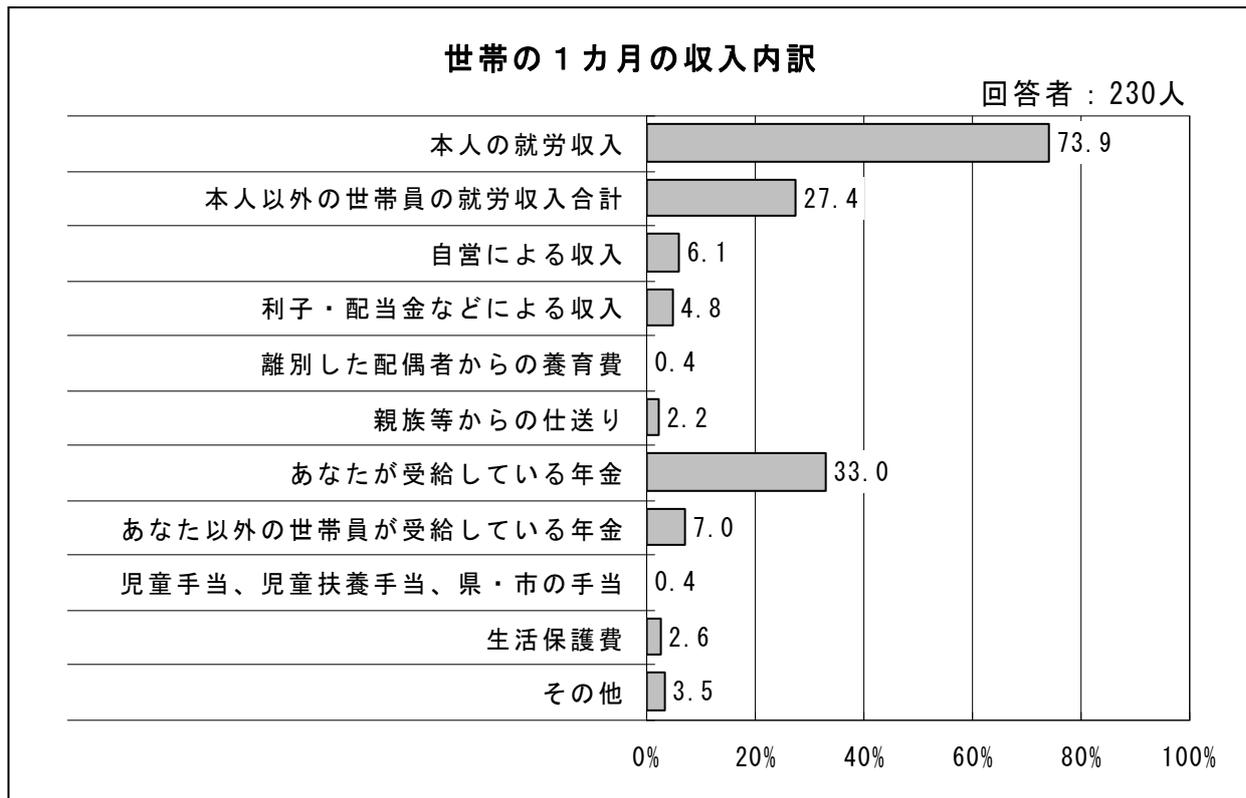
世帯の年間総収入が 200 万円未満は約2割、300 万円未満では約4割

寡婦の年間総収入は 200 万円未満が3割以上、年間就労収入では 200 万円未満が4割以上

世帯の年間総収入（平成24年1月1日から平成24年12月31日）は、「500万円～1,000万円未満」が17.8%と最も多く、次いで「300万円～350万円未満」が9.2%となっている。

寡婦の年間総収入は、「150万円～200万円未満」が14.6%と最も多くなっている。また、寡婦の年間就労収入では、200万円未満は、4割以上（45.5%）を占めている。

(2) 世帯の1ヶ月の収入内訳（種類別該当項目）

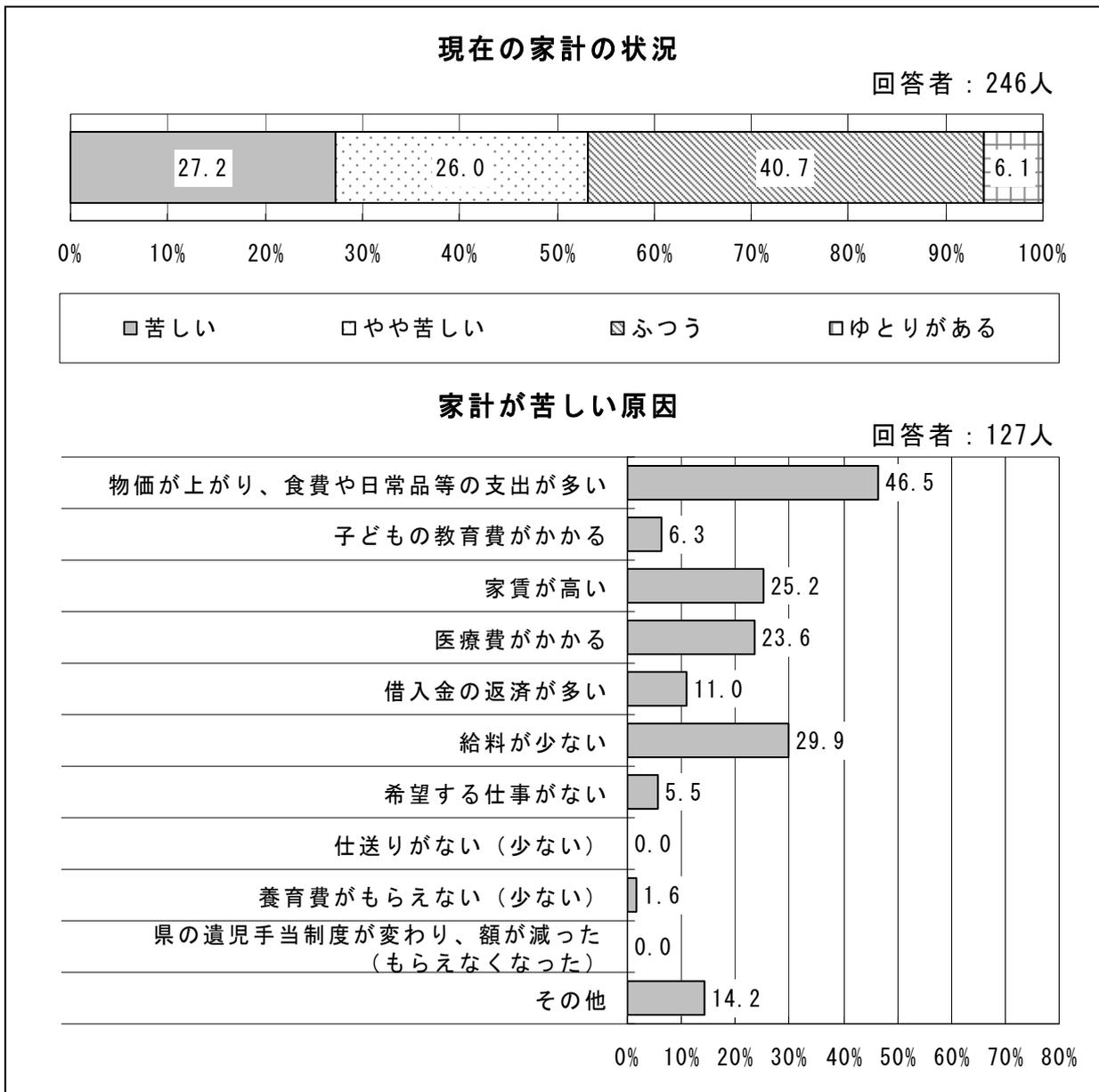


※上記表は、収入金額の多寡に関わりなく、収入があると回答された項目の割合を示している（例：「本人の就労収入」であれば、回答者230人×73.9%≒170人（世帯）に就労収入があることが分かる）

本人の就労収入が約7割

世帯の1ヶ月の税込み収入額を収入の種類別にみると、「本人の就労収入」が73.9%と最も多く、次いで「あなたが受給している年金」(33.0%)、「本人以外の世帯員の就労収入合計」(27.4%)の順となっている。

(3) 現在の家計の状況



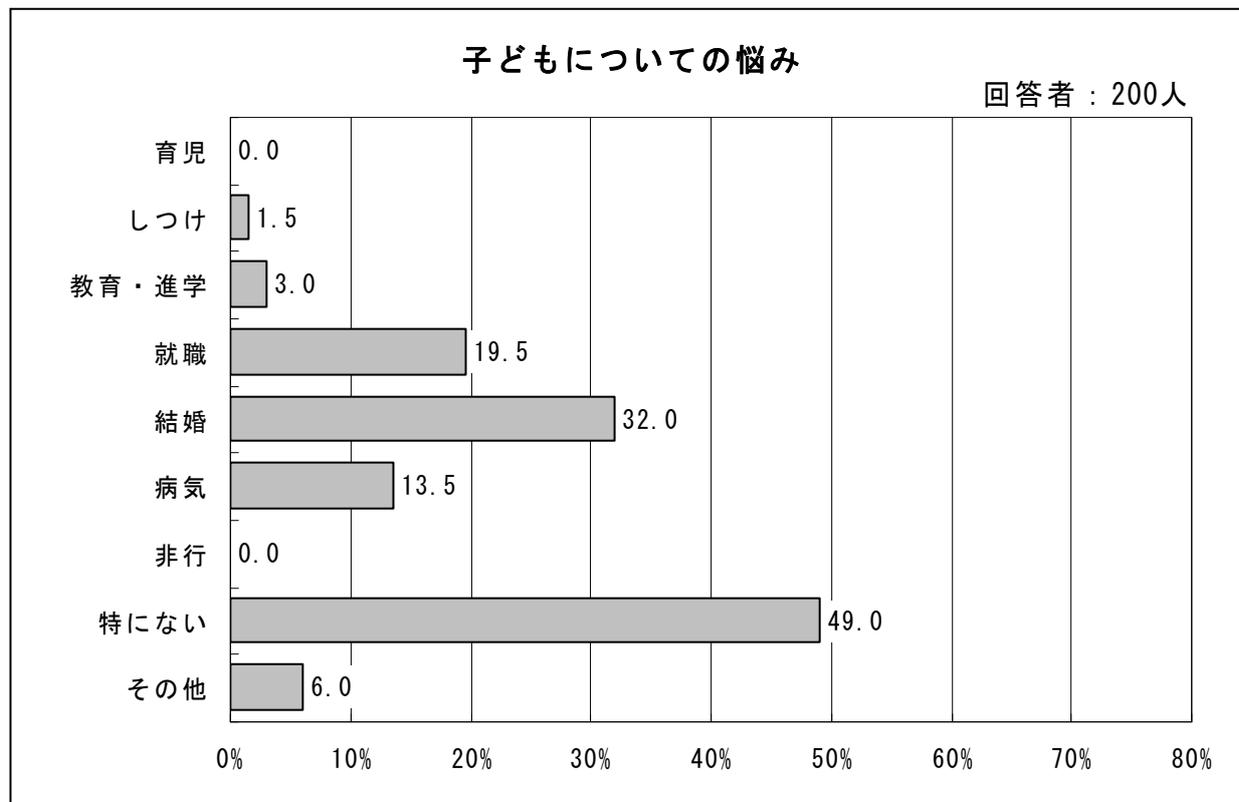
家計が苦しいと感じている人が約5割、苦しい原因は物価の上昇が約5割

現在の家計の状況については、「ふつう」が40.7%と最も多くなっており、「苦しい」(27.2%)と「やや苦しい」(26.0%)を合わせた“家計が苦しいと感じている人”は約半数を占めている。

また、苦しい原因については、「物価が上がり、食費や日用品等の支出が多い」が46.5%と最も多く、次いで「給料が少ない」(29.9%)、「家賃が高い」(25.2%)、「医療費がかかる」(23.6%)の順となっている。

6 子どもの教育等について

(1) 子どもについての悩み

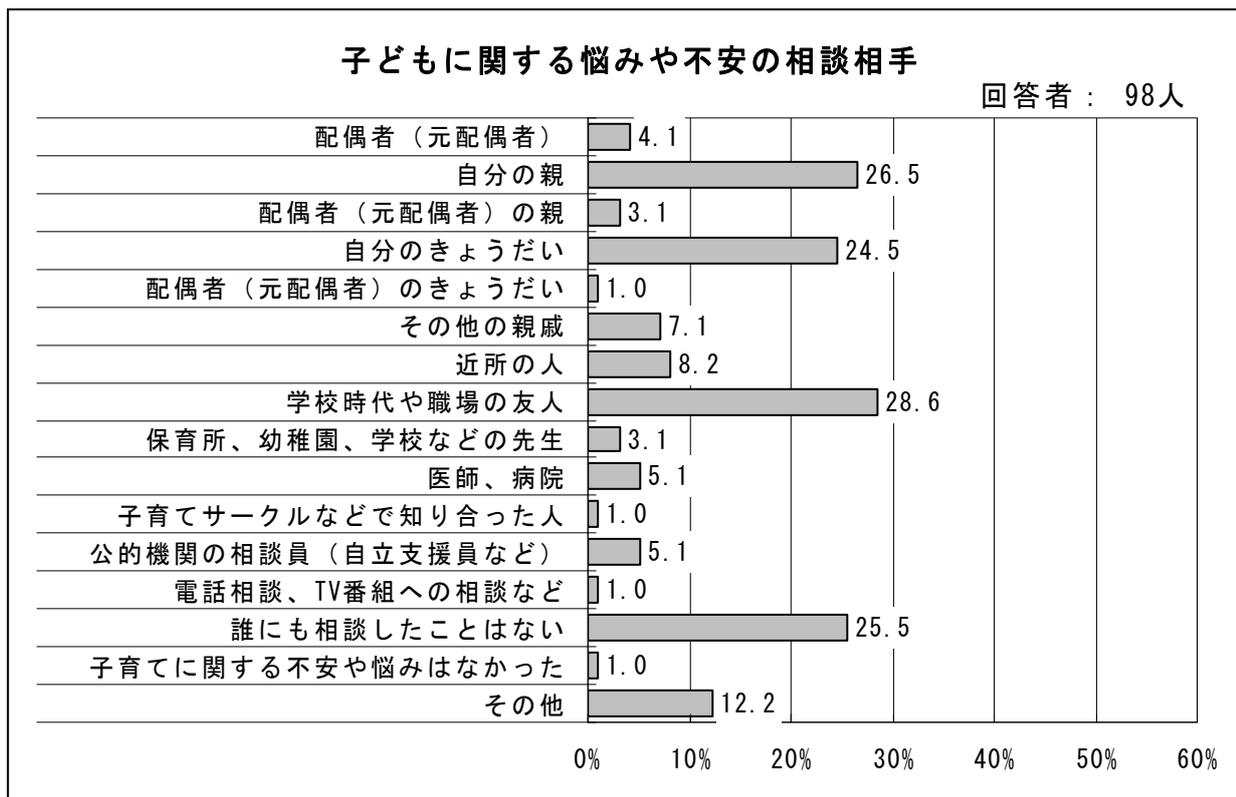


子どもについて悩みがある人は約5割、悩みの内容は結婚が約3割

子どもについて悩みがある人は、全体の約5割（51.0%）を占めており、悩みの内容は「結婚」が32.0%と最も多く、次いで「就職」（19.5%）、「病気」（13.5%）の順となっている。

一方、「特にない」人も約5割（49.0%）を占めている。

(2) 子どもに関する悩みや不安の相談相手

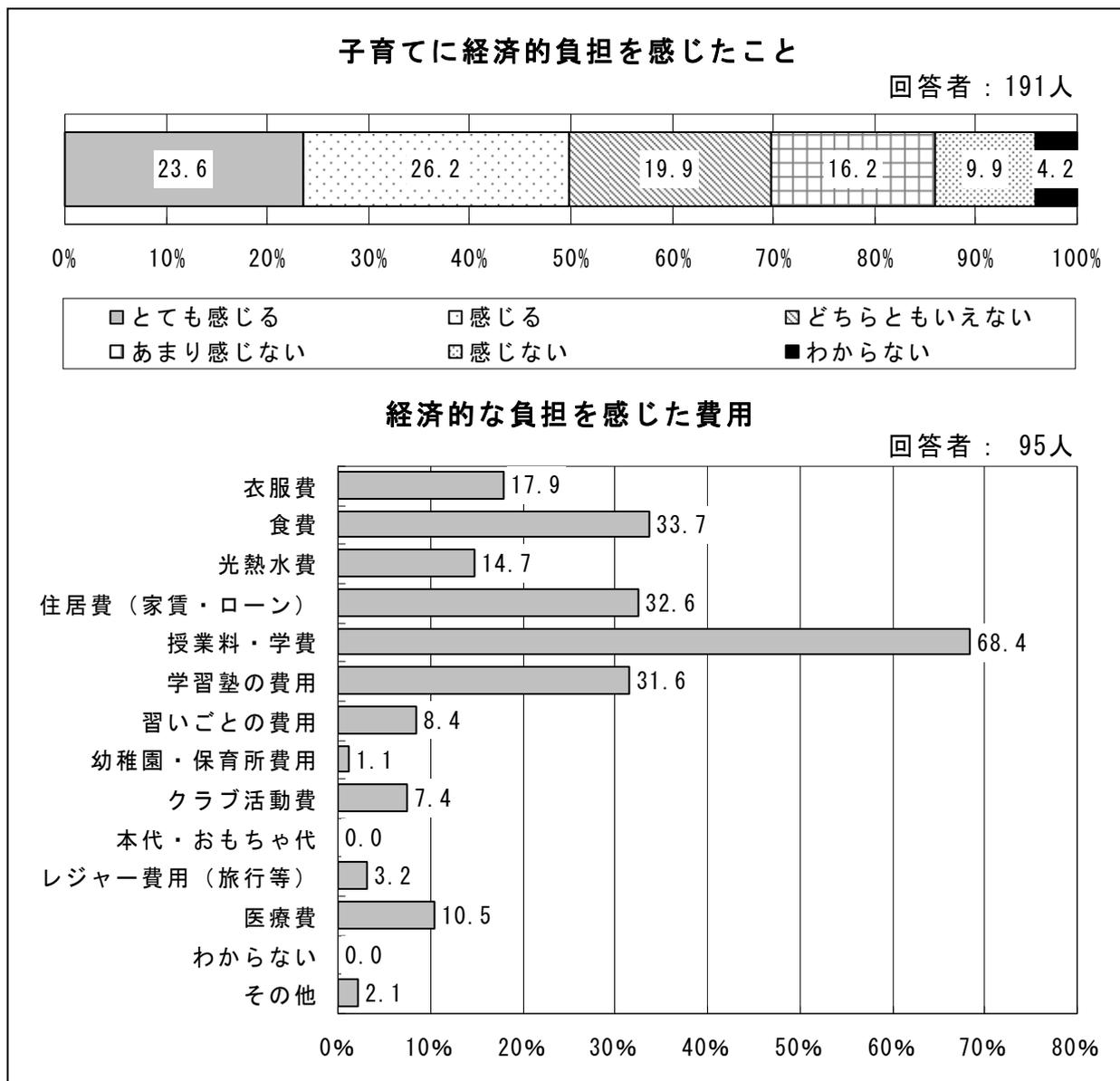


子どもに関する悩みや不安の相談相手は、学校時代や職場の友人が約3割

子どもに関する悩みや不安の相談相手は、「学校時代や職場の友人」が 28.6%と最も多く、次いで「自分の親」(26.5%)、「自分のきょうだい」(24.5%) の順となっている。

一方、「誰にも相談したことはない」が 25.5%となっている。

(3) 経済的負担

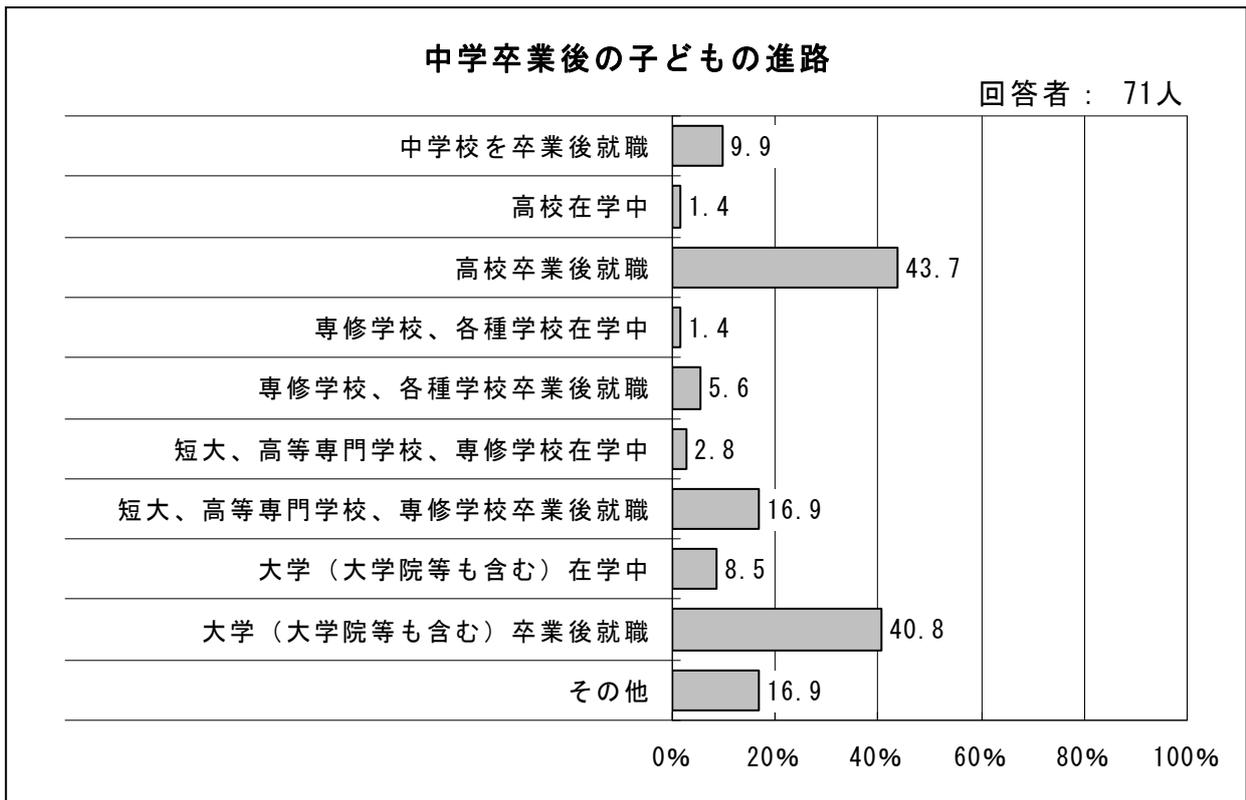


子育てに経済的な負担を感じた人は約5割

経済的な負担を感じた費用として、子どもの授業料・学費を負担に感じた人は約7割

子育てに経済的な負担を感じた人は、全体の約5割(49.8%)を占めており、負担を感じた費用は、「授業料・学費」が68.4%と最も多く、次いで「食費」(33.7%)、「住居費(家賃・ローン)」(32.6%)、「学習塾の費用」(31.6%)の順となっている。

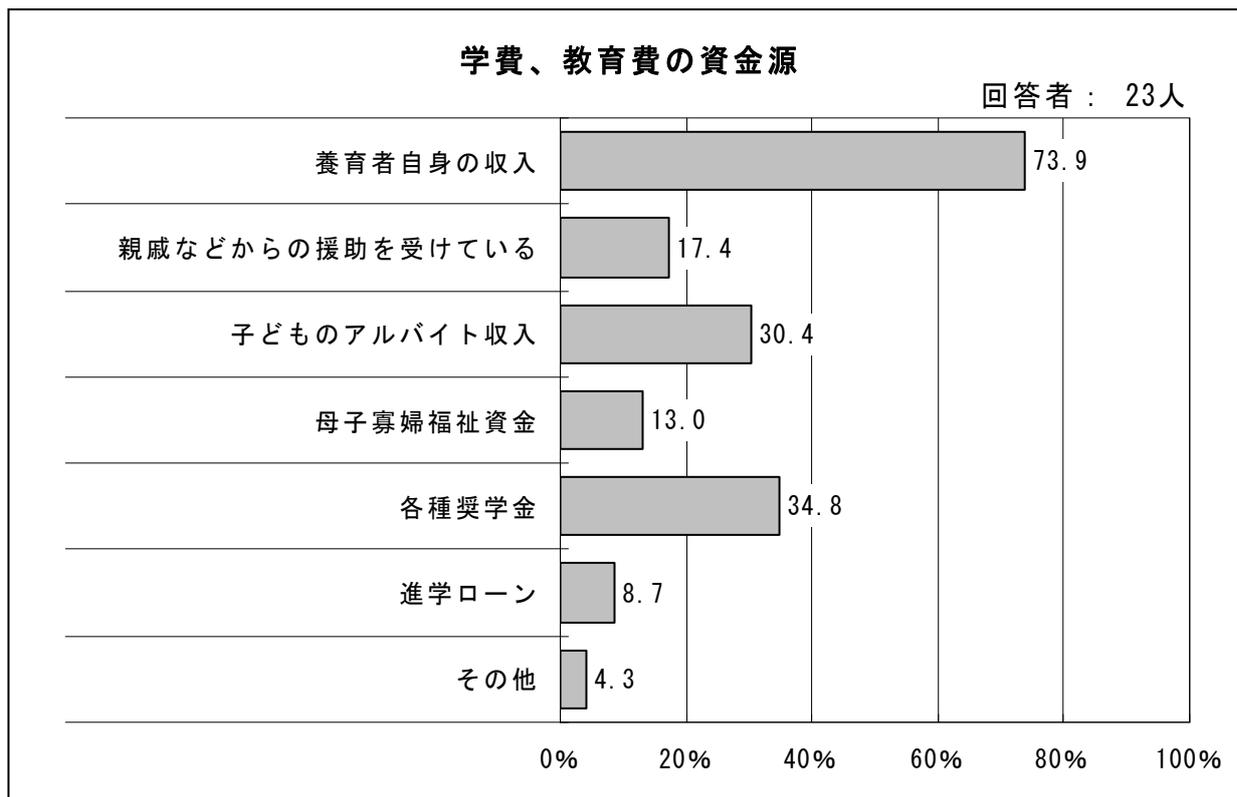
(4) 中学校を卒業後の子どもの進路



中学を卒業した子どもの進路は、高校卒業後就職、大学卒業後就職が約4割

中学校を卒業した子どもの進路についてみると、「高校卒業後就職」が 43.7%と最も多く、次いで、「大学（大学院等も含む）卒業後就職」（40.8%）、「短大、高等専門学校、専修学校卒業後就職」（16.9%）の順となっている。

(5) 学費・教育費の資金源

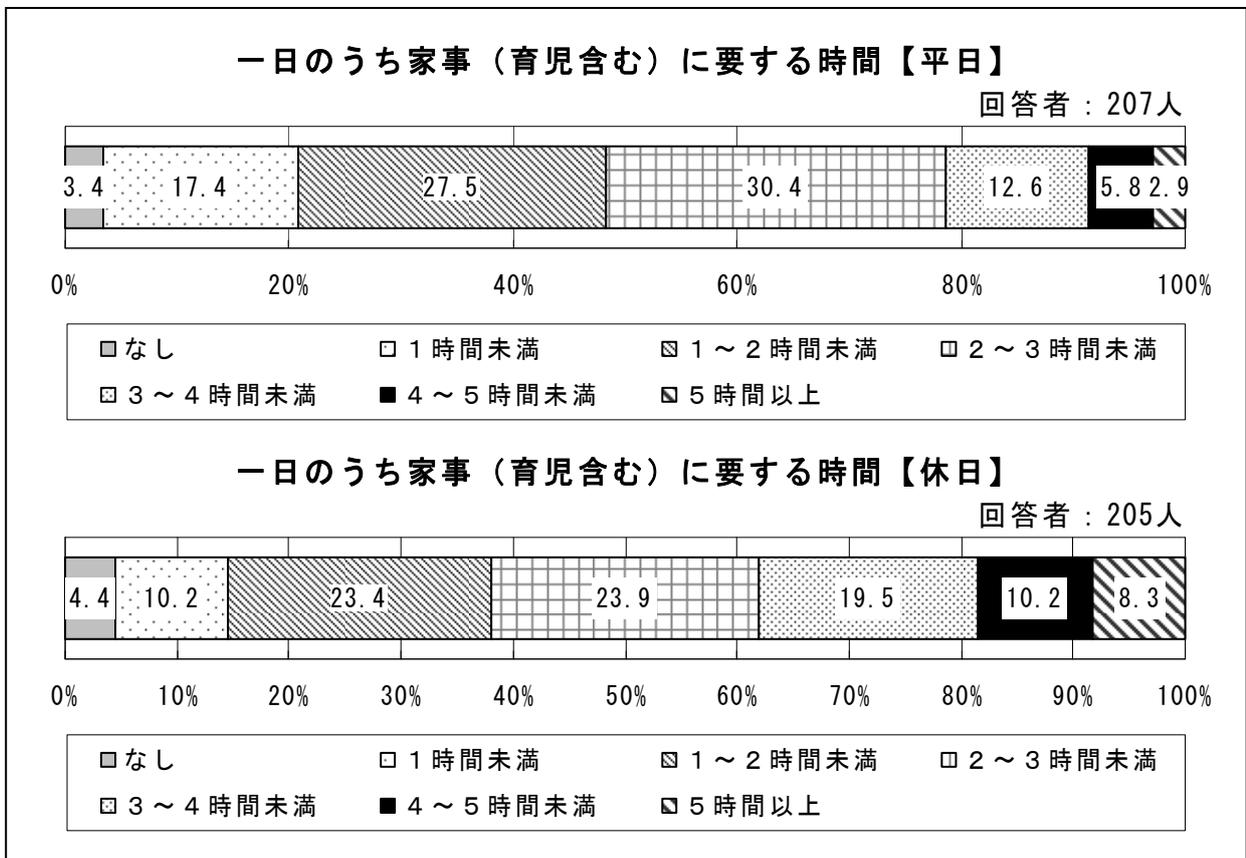
**学費の資金源は養育者の収入が約7割、各種奨学金が約3割**

学費の資金源については「養育者自身の収入」が73.9%と最も多く、次いで「各種奨学金」(34.8%)、「子どものアルバイト収入」(30.4%)、「親戚などからの援助を受けている」(17.4%)の順となっている。

7 生活等について

(1) ワークライフ・バランスについて

①一日のうち家事（育児含む）に要する時間

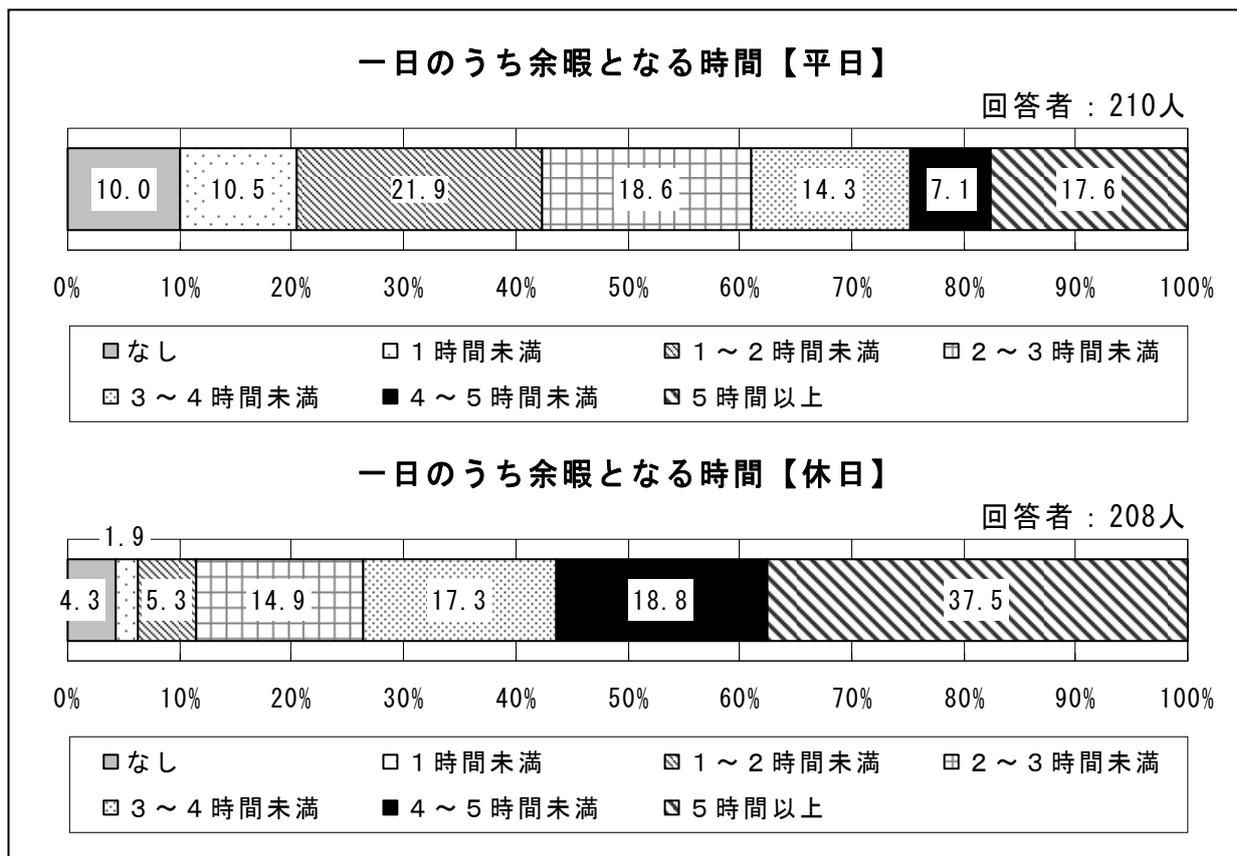


家事に要する時間は、平日は3時間未満が約8割、休日は3時間以上が約4割

一日のうち家事をする時間については、平日では「2～3時間未満」が30.4%と最も多く、次いで「1～2時間未満」(27.5%)、「1時間未満」(17.4%)、「3～4時間未満」(12.6%)、「4～5時間未満」(5.8%)の順となっている。

また、休日では「2～3時間未満」が23.9%と最も多く、次いで「1～2時間未満」(23.4%)、「3～4時間未満」(19.5%)の順となっている。

②一日のうち余暇となる時間

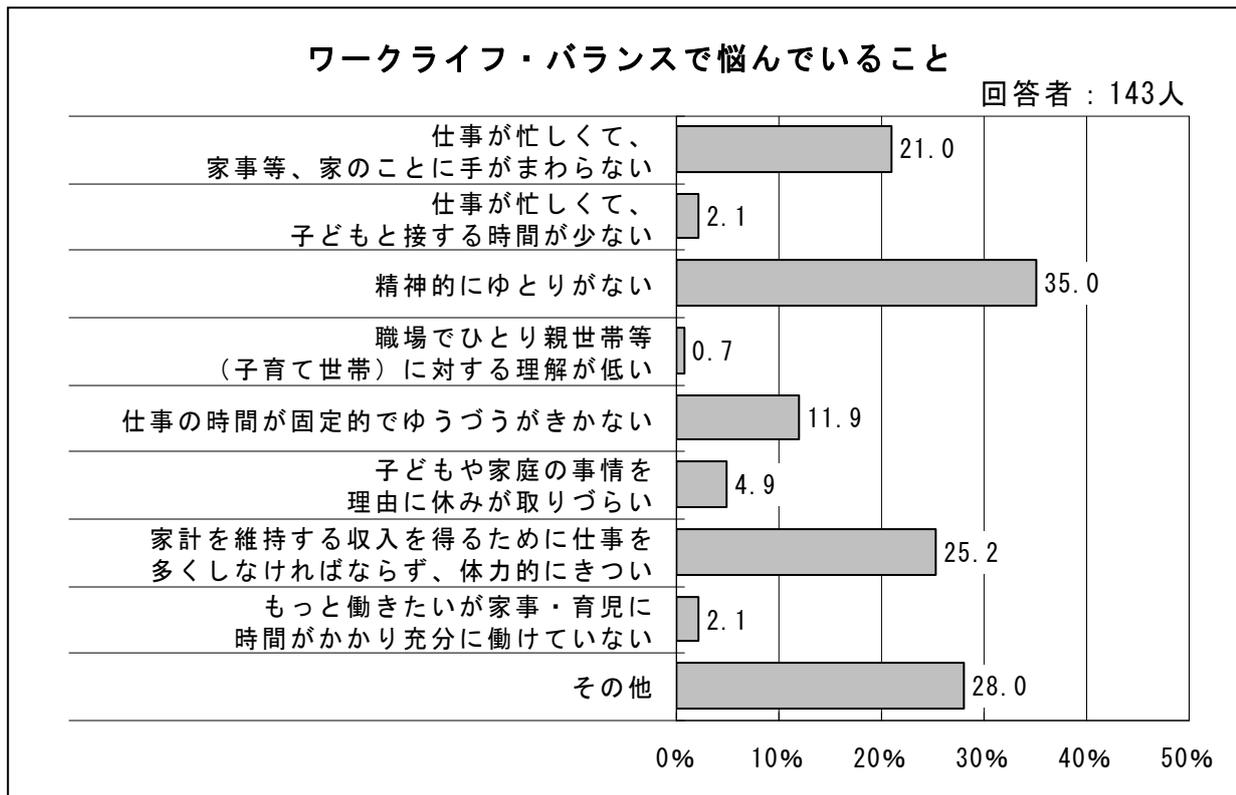


余暇となる時間は、平日は2時間未満が約4割、休日は4時間以上が約6割

一日のうち余暇となる時間については、平日では「1～2時間未満」が21.9%と最も多く、次いで「2～3時間未満」(18.6%)、「5時間以上」(17.6%)の順となっている。

また、休日では「5時間以上」が37.5%と最も多く、次いで「4～5時間未満」が18.8%となっている。

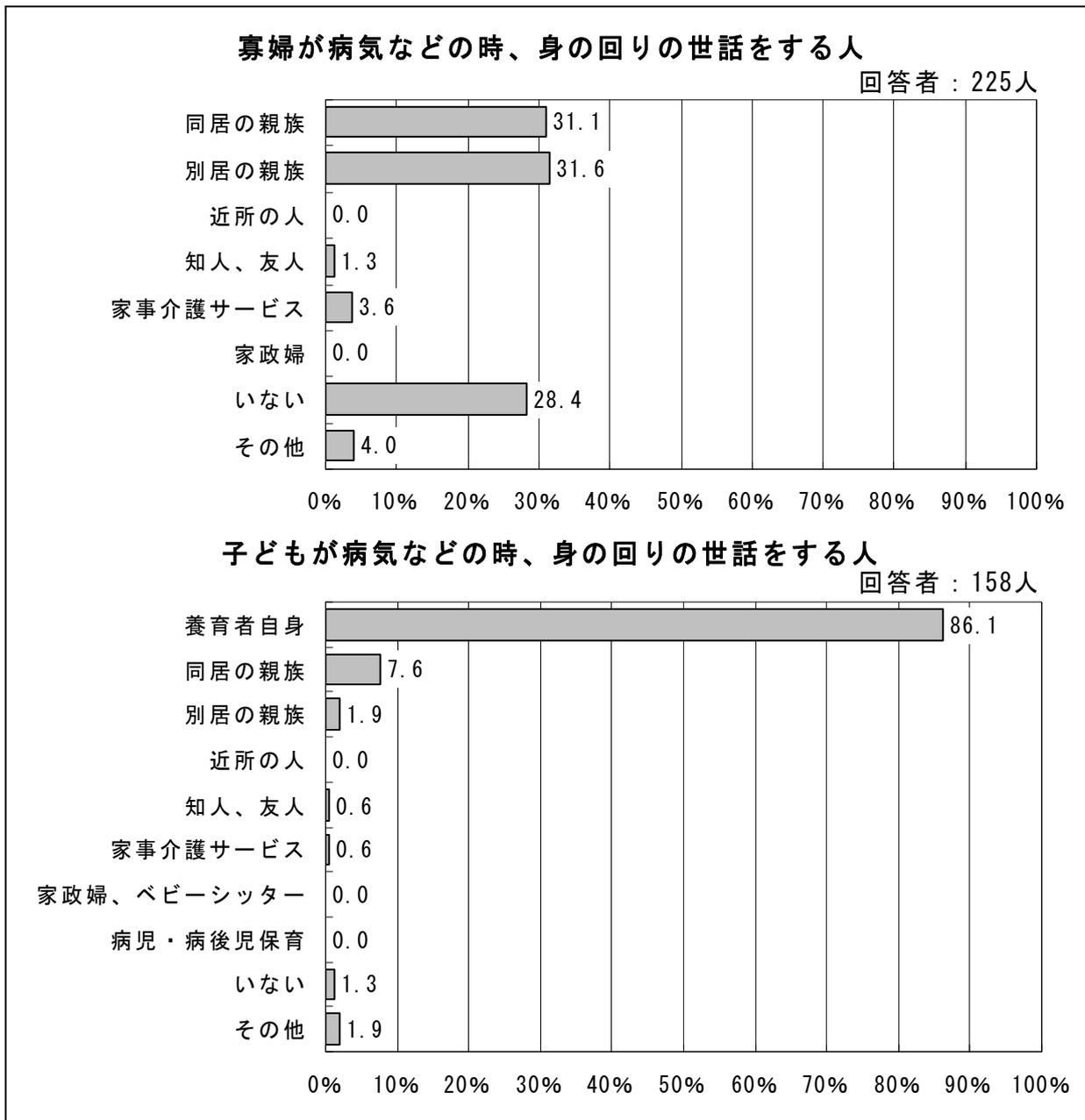
③ワークライフ・バランスで悩んでいること



ワークライフ・バランスで悩んでいることは、精神的にゆとりがないが4割

ワークライフ・バランスで悩んでいることについては、「精神的にゆとりがない」が 35.0%と最も多く、次いで「家計を維持する収入を得るために仕事を多くしなければならず、体力的にきつい」(25.2%)、「仕事が忙しくて、家事等、家のことに手がまわらない」(21.0%)の順となっている。

(2) 病気などの時の身の回りのこと



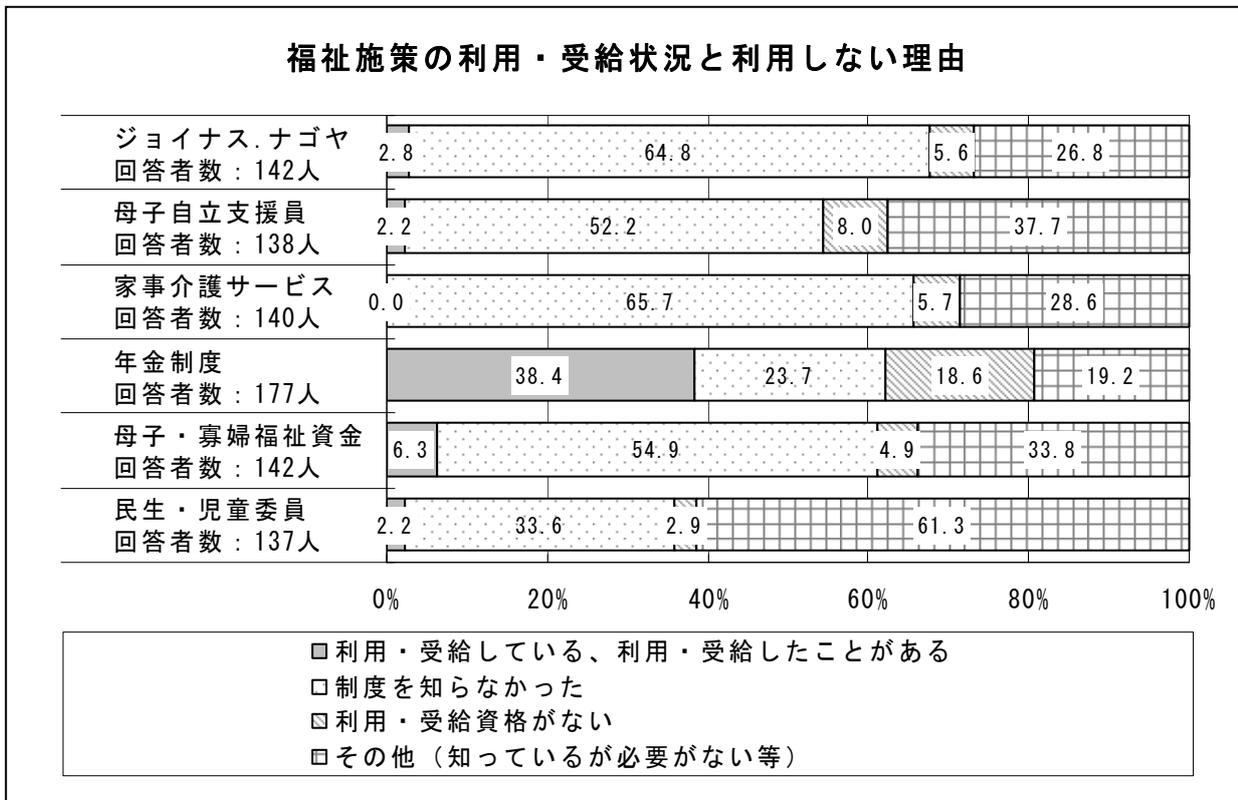
**養育者が病気の際に身の回りの世話をしてくれる人は、親族が約6割
子どもが病気の際は、父親自身が約7割となっている**

寡婦が病気などで一時的に介護が必要となったとき、身の回りの世話をしてくれる人は「別居の親族」が31.6%と最も多く、次いで「同居の親族」が31.1%となっている。一方、身の回りの世話をしてくれる人が「いない」人は3割（28.4%）となっている。

また、子どもが病気などの時は、「養育者自身」が86.1%と最も多くなっている。

8 福祉施策利用・受給状況

(1) 福祉施策の利用・受給状況と利用しない理由

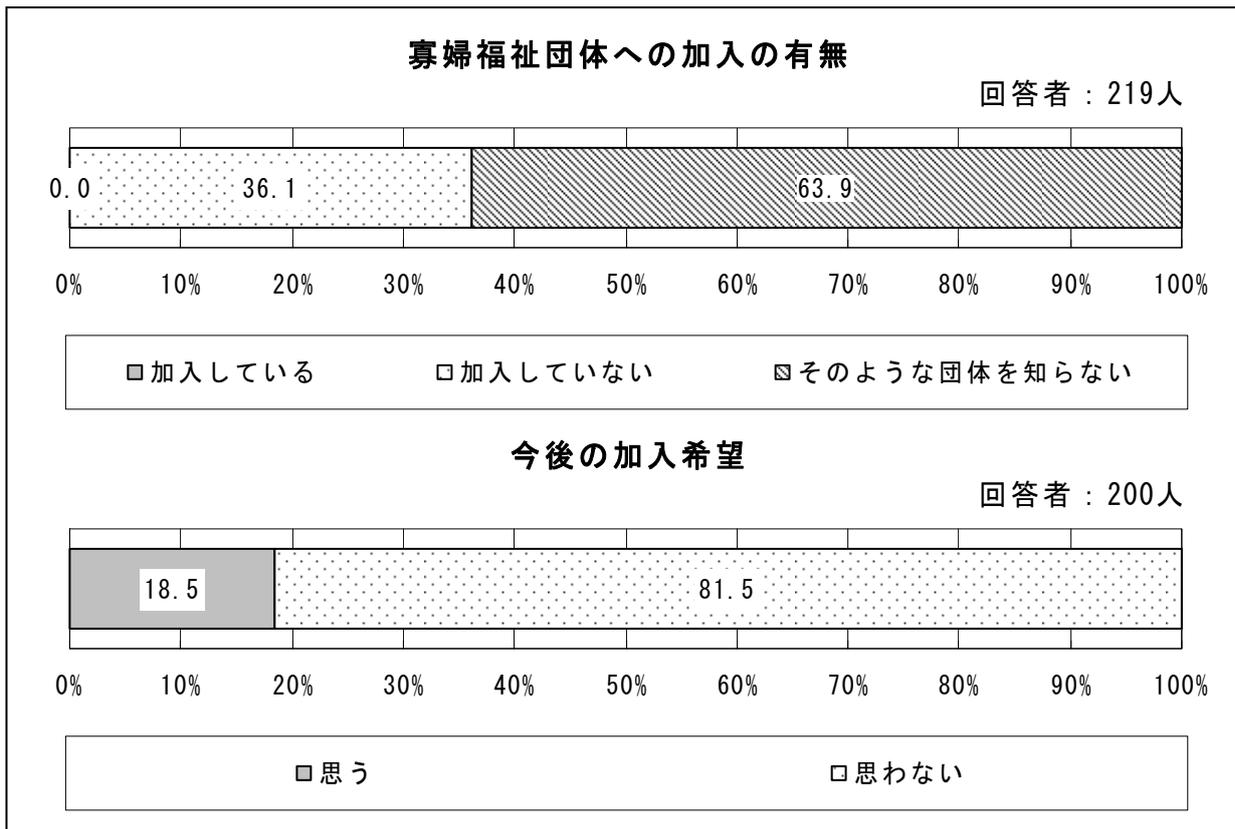


利用者が多いのは、年金制度が約4割

福祉施策の利用・受給状況については、利用・受給している、利用・受給したことがあると回答した割合が多かったのは、「年金制度」が38.4%となっており、すべて半数以下となっている。

一方、制度を知らなかった人が多かった項目は、「家事介護サービス事業」が約7割(65.7%)となっており、次いで「ジョイナス・ナゴヤ」(64.8%)、「母子・寡婦福祉資金」(54.9%)、「母子自立支援員」(52.2%)の順となっている。

(2) 寡婦福祉団体への加入



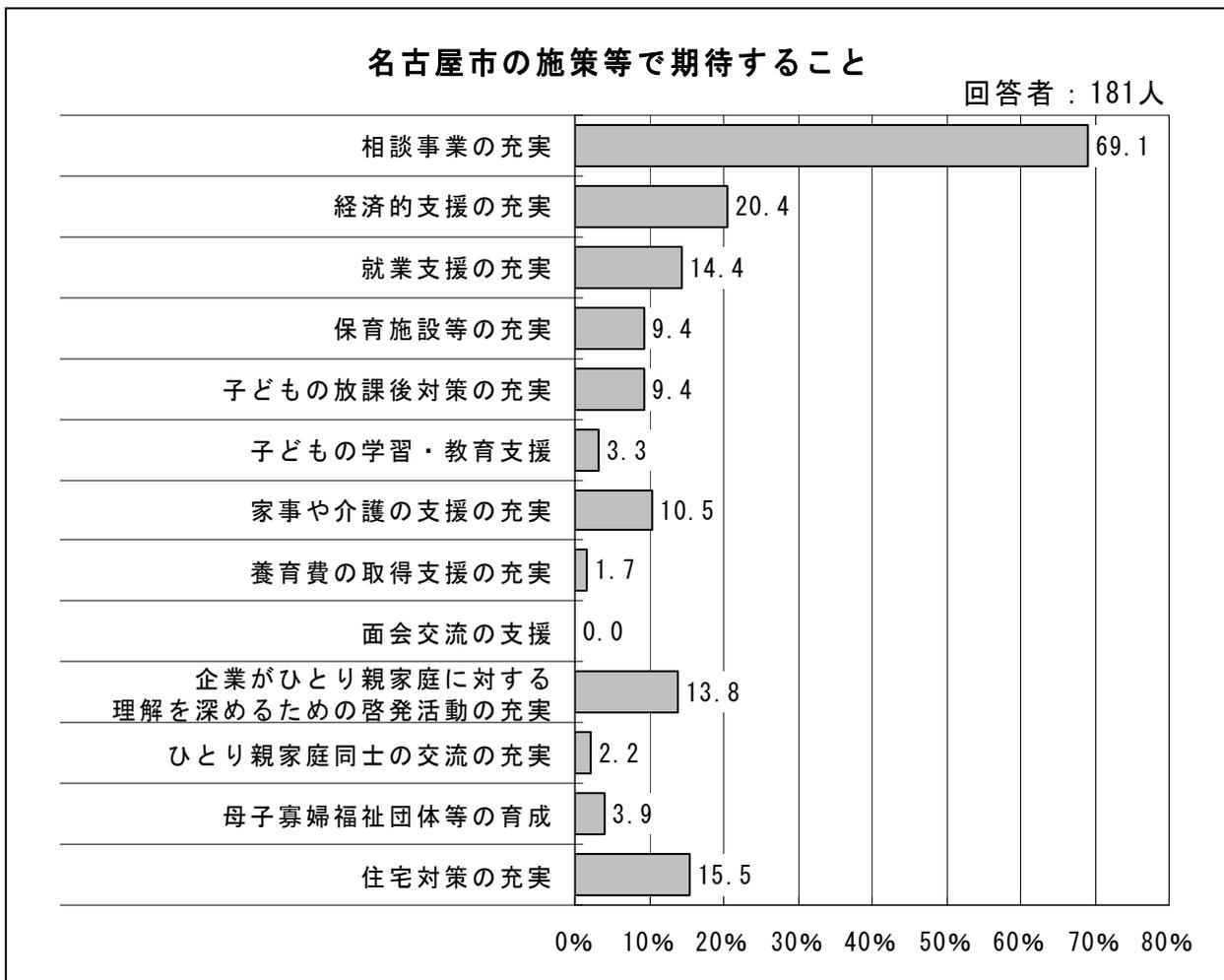
**寡婦福祉団体へ加入していない人は約4割、団体を知らない人は約6割
今後、団体への加入を希望している人は約2割**

寡婦福祉団体への加入については、「加入している」人はいない。「加入していない」人は 36.1%、「そのような団体を知らない」人は 63.9%となっている。

寡婦福祉団体に「加入していない」または「そのような団体を知らない」人のうち、今後加入をしたいと「思う」人は 18.5%となっている。

(3) 名古屋市の施策への期待

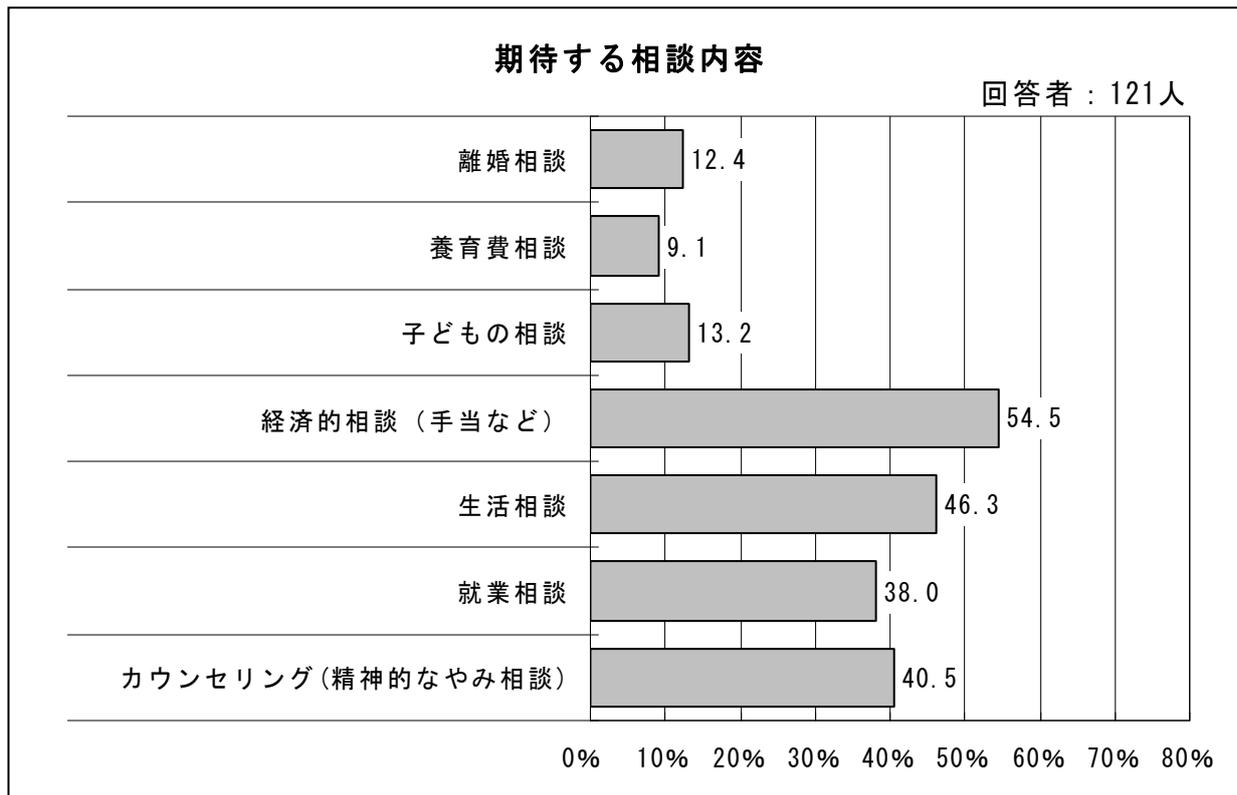
①名古屋市の施策等で期待すること



名古屋市の施策等で期待することは、相談事業が約7割、経済的支援が約2割

名古屋市の施策等で期待することは、「相談事業の充実」が 69.1%と最も多く、次いで「経済的支援の充実」(20.4%)、「住宅対策の充実」(15.5%)、「就業支援の充実」(14.4%)、「企業がひとり親家庭に対する理解を深めるための啓発活動の充実」(13.8%)の順となっている。

②相談事業の内容について期待すること

**期待する相談内容は、経済的相談(手当など)が約5割**

名古屋市の施策等で相談事業の充実を期待している人のうち、期待する相談内容については、「経済的相談(手当など)」が54.5%と最も多く、次いで「生活相談」(46.3%)、「カウンセリング(精神的な悩み相談)」(40.5%)、「就職相談」(38.0%)の順となっている。